

令和元年度  
教育委員会の事務執行に関する点検評価報告書

(平成30年度対象)

令和元年11月

深谷市教育委員会



## 目 次

1 趣 旨	1 頁
2 点検評価の目的	1 頁
3 点検評価の対象及び方法	2 頁
4 第 2 期深谷市教育振興基本計画の施策体系	3 頁
5 点検評価表及び重点施策評価表	
I 確かな学力と自立する力の育成	
(1) 生きる力の基礎を育む幼児教育の推進	4 頁
(2) 未来を切り拓くための確かな学力の育成	8 頁
(3) 郷土深谷を愛し国際性を育む教育の推進	12 頁
(4) 時代の変化に対応する教育の推進	18 頁
(5) 夢を育み志を実現するキャリア教育の推進	22 頁
(6) 多様なニーズに応じた特別支援教育の推進	24 頁
II 豊かな心と健やかな体の育成	
(1) まごころと思いやりを育む教育の推進	28 頁
(2) いじめ・不登校の防止	32 頁
(3) 生徒指導の充実	36 頁
(4) 人権を尊重した教育の推進	38 頁
(5) 健康の保持増進	42 頁
(6) 体力の向上と学校体育活動の推進	46 頁
III 地域に信頼される学校教育の推進	
(1) 信頼される教職員の育成	50 頁
(2) 学校の組織運営の改善と地域の核となる学校づくり	54 頁
(3) 子供たちの安全・安心の確保	56 頁
(4) 学習環境の整備・充実	60 頁

IV	家庭・地域・学校の連携による教育力の向上	
(1)	家庭の教育力向上に向けた支援	62頁
(2)	家庭・地域・学校が協力する教育体制の整備	64頁
V	生涯学習の推進	
(1)	市民のニーズに応える生涯学習の支援	66頁
(2)	生涯学習施設の整備・充実	68頁
(3)	図書館サービスの充実	70頁
VI	郷土の歴史・文化の継承と活用	
(1)	渋沢栄一翁をはじめ郷土の偉人を生かした取組の推進	72頁
(2)	深谷が誇る歴史・文化の保存・継承と活用	76頁
(3)	市民が行う文化芸術活動の支援	80頁
VII	スポーツ・レクリエーションの推進	
(1)	スポーツ・レクリエーションに親しめる環境整備	82頁
(2)	スポーツ・レクリエーションを通じた健康・ふれあいづくりの推進	84頁
(3)	スポーツ・レクリエーションによるまちの活性化	86頁
6	結びに	88頁

## 1 趣 旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定により、すべての教育委員会は、毎年、教育長及び事務局の事務執行を含む教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとされています。

本市教育委員会では、同法の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすため、「教育委員会の事務執行に関する点検評価」（以下「点検評価」という。）を実施し、報告書にまとめました。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）抜粋

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## 2 点検評価の目的

この点検評価は、首長から独立した合議制の教育委員会が決定する基本方針に沿って具体的な教育行政が執行されているかどうかについて、教育委員会自らが事後にチェックすることにより、地域住民に対する説明責任を果たし、効果的な教育行政の推進に資することを目的としています。

### 3 点検評価の対象及び方法

本市教育行政の基本施策は、平成30年3月に策定された立志と忠恕の深谷教育プラン（以下「第2期深谷市教育振興基本計画」という。）に位置づけられています。

このため、第2期深谷市教育振興基本計画に位置づけられた27施策（中項目）を評価単位として、平成30年度の取組について点検評価を実施しました。

点検評価表のうち、総合評価は、「SABC」評価とし、区分の目安として、

S：計画以上に進んでいる

A：ほぼ計画通りに進んでいる。

B：あまり進んでいない。

C：まったく進んでいない。

としました。

この区分の補足説明として、「課題」「評価コメント」欄を設けるとともに、第2期深谷市教育振興基本計画において各施策に設定されている「成果指標」の欄を設け、平成28年度からの実績値の推移を表で示しました。

また、「意見・提言」の欄には、教育に関し学識を有する方（以下「点検評価者」という。）の御意見や御提言の主なものを施策ごとに示しています。

さらに、各点検評価表に重点施策評価表を添付し、各施策における平成30年度の重点施策及び評価を示しています。

4 第2期深谷市教育振興基本計画 施策体系

基本目標（大項目）	施策（中項目）	点検評価表作成課 (評価表取りまとめ課)	関連課	平成30年度 重点施策評価表 作成課	
I 確かな学力と自立する力の育成	1 生きる力の基礎を育む幼児教育の推進	学校教育課	教育総務課 学校教育課	教育総務課 学校教育課	1
	2 未来を切り拓くための確かな学力の育成	学校教育課	学校教育課	学校教育課	2
	3 郷土深谷を愛し国際性を育む教育の推進	学校教育課	学校教育課	学校教育課	3
	4 時代の変化に対応する教育の推進	学校教育課	学校教育課	学校教育課	4
	5 夢を育み志を実現するキャリア教育の推進	学校教育課	教育総務課 学校教育課	学校教育課	5
	6 多様なニーズに応じた特別支援教育の推進	学校教育課	学校教育課	学校教育課	6
II 豊かな心と健やかな体の育成	1 まごころと思いを育む教育の推進	学校教育課	学校教育課	学校教育課	7
	2 いじめ・不登校の防止	学校教育課	学校教育課	学校教育課	8
	3 生徒指導の充実	学校教育課	学校教育課	学校教育課	9
	4 人権を尊重した教育の推進	学校教育課	学校教育課	学校教育課	10
	5 健康の保持増進	学校教育課	教育総務課 学校教育課	教育総務課 学校教育課	11
	6 体力の向上と学校体育活動の推進	学校教育課	学校教育課 生涯学習 スポーツ振興	学校教育課	12
III 地域に信頼される学校教育の推進	1 信頼される教職員の育成	学校教育課	学校教育課	学校教育課	13
	2 学校の組織運営の改善と地域の核となる学校づくり	学校教育課	学校教育課 生涯学習スポ ーツ振興課	学校教育課	14
	3 子供たちの安全・安心の確保	学校教育課	学校教育課	学校教育課	15
	4 学習環境の整備・充実	教育施設課	教育総務課 教育施設課 学校教育課	教育施設課	16
IV 家庭・地域・学校の連携による教育力の向上	1 家庭の教育力向上に向けた支援	生涯学習スポーツ振興課	生涯学習スポ ーツ振興課	生涯学習スポ ーツ振興課	17
	2 家庭・地域・学校が協力する教育体制の整備	生涯学習スポーツ振興課	学校教育課 生涯学習スポ ーツ振興課	生涯学習スポ ーツ振興課	18
V 生涯学習の推進	1 市民のニーズに応える生涯学習の支援	生涯学習スポーツ振興課	生涯学習スポ ーツ振興課	生涯学習スポ ーツ振興課	19
	2 生涯学習施設の整備・充実	生涯学習スポーツ振興課	生涯学習スポ ーツ振興課 図書館	生涯学習スポ ーツ振興課	20
	3 図書館サービスの充実	図書館	図書館	図書館	21
VI 郷土の歴史・文化の継承と活用	1 渋沢栄一翁をはじめ郷土の偉人を生かした取組の推進	渋沢栄一記念館	渋沢栄一記念館	渋沢栄一記念館	22
	2 深谷が誇る歴史・文化の保存・継承と活用	文化振興課	文化振興課	文化振興課	23
	3 市民が行う文化芸術活動の支援	文化振興課	文化振興課	文化振興課	24
VII スポーツ・レクリエーションの推進	1 スポーツ・レクリエーションに親しめる環境整備	生涯学習スポーツ振興課	生涯学習スポ ーツ振興課	生涯学習スポ ーツ振興課	25
	2 スポーツ・レクリエーションを通じた健康・ふれあいづくりの推進	生涯学習スポーツ振興課	生涯学習スポ ーツ振興課	生涯学習スポ ーツ振興課	26
	3 スポーツ・レクリエーションによるまちの活性化	生涯学習スポーツ振興課	生涯学習スポ ーツ振興課	生涯学習スポ ーツ振興課	27

## 5 点検評価表及び重点施策評価表

基本目標 I 確かな学力と自立する力の育成				I - 1			
施策名	生きる力の基礎を育む幼児教育の推進			点検評価表 作成課	学校教育課		
施策の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○幼稚園の在り方を見直し、幼児教育の充実や保育サービスの向上を図る。</li> <li>○子供の発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育の充実を図り小学校とのなめらかな接続を推進する。</li> <li>○公共施設としての幼稚園の機能を活用した子育て支援を推進する。</li> </ul>						
施策に関連する 主な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>○質の高い幼児教育の推進</li> <li>○幼稚園教員や保育士の資質向上</li> <li>○幼児教育と小・中学校教育との連携の推進</li> <li>○幼稚園を活用した子育て支援の充実</li> </ul>						
指標名	子育てひろば(全4回)の参加率						
指標の説明	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	令和2年度 実績値	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値
未就園児とその保護者を対象として、年4回市内公立幼稚園で行う子育て支援事業の全て の回に参加した親子の割合	86.3%	86.4%	85.1%				
	現状値 (平成28年度)		86.3%	➡		目標値 (令和4年度)	
平成30年度 重点施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市立幼稚園再編計画の策定</li> <li>○幼稚園教員・保育士対象の研修</li> <li>○幼保小中連携の推進</li> <li>○就園前教育支援事業</li> </ul>						
平成30年度 実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>○質の高い幼児教育の推進                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教諭研修会(4月・5月・8月・12月)を実施した。</li> <li>・幼稚園教諭保育参観研修(6月・10月・1月)を実施した。</li> <li>・教育委員会の定例会や市立幼稚園の再編に係る検討会議において、市立幼稚園の在り方を検討した。</li> <li>・「深谷市立幼稚園における保育サービスの向上及び再編方針」を策定した。</li> </ul> </li> <li>○幼稚園教諭や保育士の資質向上                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教諭保育参観研修及び幼稚園教諭・保育士の交流会(7月)を実施した。</li> </ul> </li> <li>○幼児教育と小・中学校教育との連携の推進                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼保小中連絡協議会を2回実施した。(1回目は8月の全体会、2回目は各小学校区にて調整し実施)</li> </ul> </li> <li>○幼稚園を活用した子育て支援の充実                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・就園前幼児教育支援事業「子育てひろば」を開催した。(全体会2回と幼稚園会場27回(9園×3回))</li> </ul> </li> </ul>						
総合評価	A		※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない				
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育の質の向上を図る必要がある。</li> <li>・就園前幼児教育支援事業「子育てひろば」の活動内容の充実と会場の整備を進める必要がある。</li> </ul>						
評価コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「子育てひろば」に参加した方の満足度は高い。未就園児を持つ保護者にとって、同年齢の子供達と安心して遊ばせたり、子育てに対する不安や悩みを話したり、横の繋がりが持てることのできる場であるとともに、教育研究所の専門員や学校福祉相談員等により、子育てのアドバイスや心理面のサポートを受けられる機会となっている。また、幼稚園就園を考えている保護者にとっては、園の様子が分かり、園児や教師との関わりを持つことができ、参加者の半数以上が市立幼稚園へ入園した。</li> <li>・おかべ幼稚園で3歳児受入れ、平日の預かり時間の延長、長期休業中の預かり保育を実施することができた。</li> <li>・以上のことから、総合評価は「A」とする。</li> </ul>						
意見・提言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3歳児受入れや平日の預かり時間の延長などの保育サービスの向上は、預ける保護者からすると非常にありがたい取組で評価できる。</li> <li>・子育てひろばは、主任児童委員も運営に携わり、安全に配慮されており、参加者もいろいろな体験ができる良い事業のため継続してほしい。</li> </ul>						



# 重点施策評価表

重点施策名	市立幼稚園再編計画の策定		担当課	教育総務課
概要	幼児教育の充実と保育サービスの向上を目的として、ふかやこども園モデル園の検証を踏まえ、市立幼稚園の再編計画を策定する。			
平成30年度 の実績	<p>1 深谷市立幼稚園の在り方の検討 教育委員会で協議を重ねるとともに、有識者、地域の代表者、子育て支援団体代表、保護者その他の関係者で構成する深谷市立幼稚園の再編に係る検討会議を設置し、3回にわたり出席者から意見を聴取した。 そして、これらの意見等を参考に方針をとりまとめ、総合教育会議で市長と協議を行った後、平成30年9月の教育委員会定例会において「深谷市立幼稚園における保育サービスの向上及び再編方針」を策定した。</p> <p>2 深谷市立幼稚園における保育サービスの向上及び再編方針 (1)保育サービスの向上 ・令和3年度から全園で、次の保育サービスを実施する。 ①3歳児受入れ ②平日の預かり時間の延長 ③長期休業中の預かり保育 ④毎日の給食の提供</p> <p>(2)再編 ・幡羅幼稚園・常盤幼稚園・明戸幼稚園を再編して、新園を設置し、令和3年度の開園を目指す。</p>			
		指標名	実績値	指標別コメント
		教育委員会定例会での協議回数	4回	5月、6月、7月、8月の教育委員会定例会で協議を行った。また、9月の定例会では議案として提出し、議決された。
		深谷市立幼稚園の再編に係る検討会議の開催回数	3回	有識者、地域の代表者、子育て支援団体代表、保護者、その他の関係者で構成する会議を3回開催した。
	総合教育会議での協議回数	1回	9月12日に開催した総合教育会議において、市長と協議を行った。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	4	<p>教育委員会の定例会、深谷市立幼稚園の再編に係る検討会議や総合教育会議を経て、「深谷市立幼稚園における保育サービスの向上及び再編方針」を策定することができた。 今後は、幼児教育の無償化に係る状況を見据えつつ、3年ごとに深谷市立幼稚園の就園状況を検討し、再編する時期を見極めていく。</p>		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

## 重点施策評価表

重点施策名	幼稚園教員・保育士対象の研修		担当課	学校教育課
概要	研修を充実させ、幼児一人一人に対応した指導方法の工夫・改善を図る。			
平成30年度の実績	【市立幼稚園教諭と市立保育園保育士の保育参観研修会及び交流会の実施】			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象…正規職員 幼稚園教諭・保育士</li> <li>・日時:平成30年7月30日(月)</li> <li>会場:おかべ幼稚園</li> <li>参加者:幼稚園教諭、保育士</li> <li>・内容…保育園3歳児クラスの保育を参観し、3歳児保育等について知識を深めた。保育等について意見交換等を行った。</li> </ul>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	研修会及び交流会の実施回数	1回	実際に保育園3歳児を参観、参加しながら、就学前教育について共通理解することができた。幼稚園、保育園勤務状況が違うので、研修日の設定が困難である。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	幼稚園、保育園の職員間での人事交流も進んでいる。同じ就学前の幼児を教育・保育をしていることから現状の様子や課題等を話し合い、共通理解を図ることにより小学校とのなめらかな接続を図るきっかけとすることができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策名	幼保小中連携の推進		担当課	学校教育課
概要	「子育ての目安『3つのめばえ』」や「深谷の子『6つの誓い』」などの取組を推進し、家庭や関係機関との連携を図る。			
平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県から配布された「3つのめばえ」のポスターの掲示、懇談会等での「パンフレット」配布、また、遊びの中で「3つのめばえ」カルタを活用する等、園生活の中で「3つのめばえ」を意識しながら教育を行った。</li> <li>・小学校の教職員との研修会や連絡会等を行い、就学前までに身に付けてほしいことや園での取組について協議する場を設けた。</li> <li>・地域の保育園や小・中学校で子供同士の交流活動や職員間での連携を実施した。</li> </ul>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	子育ての目安「3つのめばえ」の活用率	100%	全幼稚園(9園)では、様々な「3つのめばえ」の資料等を活用し、教育活動に取り入れ、保護者への啓発も積極的に行った。	
	地域の小学校と連携をしている数	9園	全幼稚園(9園)で、地域の小学校行事への参加、施設を使用しての交流や職員間での連携を進めた。	
地域の保育園・中学校と連携をしている数	保育園 3園 中学校 3園	立地条件等により、小学校のように連携をしていくのは難しいが、できる保育園・中学校と工夫をしながら連携をした。		
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	子育ての目安「3つのめばえ」の様々な資料を保育や教育の中で活用することにより、小学校入学までに身に付けたいことを意識し、幼児期の教育と家庭の教育の充実を図り、小学校へのなめらかな接続につなげた。また、地域の幼稚園・小・中学校との連携による行事参加や教職員のコミュニケーションを図ることができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

# 重点施策評価表

重点施策名	就園前教育支援事業	担当課	学校教育課
概要	幼稚園の施設を活用し、幼児教育に不安や悩みを持つ子供の保護者の支援を充実していく。		
平成30年度 の実績	<b>【事業名】</b> 就園前教育支援事業「子育てひろば」		
	<b>【内容】</b> 深谷市在住の2歳から5歳までの未就園児親子を対象に地域の子育て支援の拠点となる市立幼稚園や公共施設(ビクターホール・公民館など)を活用し、親子で遊んだり、親子の交流を深めながら、子育ての不安や悩みの相談を行った。また、入園前に園児とふれあいながら幼稚園の生活を体験し、未就園児親子が安心して入園できるようにした。		
	<b>【実績】</b> ・全幼稚園(9園)にて実施(明戸幼稚園は休園中のため実施なし) ・全体会2回 ・幼稚園会場27回(9園×3回) ・地域のボランティア(主任児童委員・保育ボランティア)の協力を得て、活動や援助がスムーズに行えた。		
		<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>
	各幼稚園会場における子育てひろば開催回数	27回 (9園)	各園ごとに工夫した活動をすることができた。
	事業に満足した人の割合	100%	幼稚園で園児と一緒に遊んだり、親子で制作をしたり、幼稚園活動体験ができ、幼稚園を知る良い機会になった。
担当課 評価	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>	
	1	各幼稚園ごとに様々な工夫を凝らした内容で、参加保護者からも好評であった。 地域のボランティアも非常に協力的で、事業の実施の助けとなった。 また、施設面等での安全の確保が難しくなり、実施内容を検討する必要もある。 子育てひろばを通し、同年齢のお子さんを持つ保護者と交流し、横の繋がりが持てたり、子育ての講話を聞いたり、子育ての情報交換の場にもなっている。 また、参加した多くの保護者は、市立幼稚園への入園を考えており、幼稚園の様子を知る良いきっかけとなり、就園にもつながっている。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

基本目標Ⅰ 確かな学力と自立する力の育成

I-2

施策名	未来を切り拓くための確かな学力の育成		点検評価表 作成課	学校教育課				
施策の方向性	○学習指導要領の円滑な実施に努め、児童生徒に確かな学力を身に付けさせる。 ○児童生徒の学習状況を的確に把握し、学校の課題改善に向けた取組を支援する。 ○児童生徒一人一人に応じた、きめ細やかで質の高い指導を推進する。							
施策に関連する 主な取組	○「青淵学びの郷づくり」の推進			○教育研究所の資源活用				
	○教科などの指導内容・指導方法の工夫・改善							
	○学習状況の調査結果などの分析と活用の推進							
	○きめ細やかで質の高い指導の充実							
指標名	全国学力学習状況調査の正答率において、県平均を上回った学校の割合							
指標の説明		平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	令和2年度 実績値	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値
全国学力学習状況調査 において、国語、算数 (中学校は数学)の各A 問題、B問題それぞれ で県平均を上回った小・ 中学校の割合	小学校	55.3%	38.2%	44.7%				
	中学校	52.5%	52.5%	32.5%				
		現状値 (平成28年度)	小学校 中学校	55.3% 52.5%	→	目標値 (令和4年度)	小学校 中学校	58.0% 55.0%

平成30年度 重点施策	○小・中学校NRT等支援事業 ○小・中学生補習学習の充実 ○中学生検定サポート事業 ○授業力の向上 ○学力調査を活用したPDCAサイクルの確立 ○アシスタントティーチャー等の配置	
----------------	--	--

平成30年度 実績	○「青淵学びの郷づくり」の推進 ・中学生補習学習運営事業を実施した。(全中学校(10校)で実施 参加者1,604名) ・延べ191名の大学生ボランティアが中学生の学習を支援した。 ・こころざし深谷国際塾を実施した。(参加児童生徒数 小学生18名、中学生9名、合計27名) ・こころざし深谷科学塾を実施した。(参加児童生徒数 小学生12名、中学生3名、合計15名)  ○学習状況の調査結果などの分析と活用の推進 ・深谷市チャレンジの実施(中2を対象として、学習意欲の向上を図るため年1回実施) ・学力向上旬間の実施(各校において、学力向上を目的とした取組を実施) ・B問題プレチャレンジの実施(小5、中2を対象として、国語や算数・数学の記述的な問題への取組)  ○きめ細やかで質の高い指導の充実 ・少人数指導事業の実施 全小学校(19校)にアシスタントティーチャー、教科支援エキスパートを各1名ずつ配置した。	
--------------	---	--

総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
------	---	---

課題	・学力向上を図るため、教員の授業改善に向けた取組を進める必要がある。
----	------------------------------------

評価コメント	・全小学校(19校)にアシスタントティーチャー及び教科支援エキスパートを配置したことにより、担任が児童と向き合う時間を確保し、一人一人に寄り添った教育を進めることができた。 ・中学生補習学習運営事業は、全中学校(10校)で実施し、延べ1,604人が参加し補習学習を充実させることができた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。
--------	--

意見・提言	・成果指標である全国学力学習状況調査の正答率において、県平均を上回った学校の割合については、実績値が目標値に達するよう各取組を進めてほしい。
-------	--

## 重点施策評価表

重点施策名	小・中学校NRT等支援事業	担当課	学校教育課
概要	学習内容が難しくなる小4でNRT、中1でNRTとNINOを実施し、児童生徒のつまづきを早期発見してその解消を図る。		
平成30年度の実績	<b>【NRT・NINOの実施】</b> ・全小学校(19校)で4年生に対し、国語と算数のNRTを実施した。 ・全中学校(10校)で1年生に対し、数学のNRTとNINOを実施した。  <b>【NRT・NINOの活用】</b> ・全小学校(19校)において、NRTの結果をもとに基礎学力の向上が必要な児童を選出し、それらの児童を対象とした「ふっかちゃん夕焼け計算道場」(9月～3月)を実施した。 ・小・中学校において、事項の学力の傾向を把握し、授業を改善していくための資料として活用した。 ・児童生徒一人一人の学習の様子を把握するとともに、保護者にも知らせ、学力向上の取組を進めていくために活用した。		
	指標名	実績値	指標別コメント
	NRT・NINOを授業改善や学力向上のために活用した学校の割合	100%	調査結果だけでなく、付属のプリントなども活用した。
	ふっかちゃん夕焼け計算道場を実施した小学校の割合	100%	全小学校(19校)において実施できた。
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	新規事業として平成30年度より実施したが、他の学力調査と違い、標準化された調査により、児童生徒の相対的な学力を把握し、活用することができた。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点施策名	小・中学生補習学習の充実	担当課	学校教育課
概要	算数につまづきのある小学校4年対象の「ふっかちゃん夕焼け計算道場」、中学生を対象に基礎学力の定着を図るための「ステップアップレッスン」を実施し、地域人材を活用した放課後等の補習学習を充実させる。		
平成30年度の実績	<b>【補習学習の実施】</b> ・全小学校(19校)で、算数の学力レベル下位1～3までの4年生児童を対象に、9月から3月までの木曜日に学力保障の場を設けた。 ・学習に不安を感じていたり、経済的な理由で通塾をしていない生徒を主な対象として実施した。 ・中学生全学年を対象とし、学習につまづきを感じている生徒に早い段階から支援を行った。 ・学校の実態に合わせ、5月～2月までの期間、全中学校(10校)で週2回程度の補習学習を実施した。 ・全中学校(10校)で月2回程度、土曜日に補習学習を実施した。  <b>【指導員の配置】</b> ・全中学校(10校)に中学校学習支援員を1名ずつ配置し、主に国語・数学・英語の補習学習の指導を行った。 ・埼玉工業大学等の大学生が教育活動サポーターとして補習学習の支援を行った。		
	指標名	実績値	指標別コメント
	補習学習実施回数	延べ1,604回	全中学校(10校)で実施の拡充が図られ、昨年の実施回数を上回っている。
	教育活動サポーター派遣回数	延べ191回	埼玉工業大学等の協力を得て、各学校に多数の学生が派遣された。
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	・全中学校(10校)で積極的に補習学習を実施し、昨年の実施回数を上回ることができた。 ・教育活動サポーターは多くの大学生に協力をいただいた。より多くの協力を得られるよう、大学との連携を図っているが、まだ不足している部分があり、他の協力依頼先を模索していく必要がある。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

## 重点施策評価表

重点施策名	中学生検定サポート事業	担当課	学校教育課
概要	英語検定や数学検定の費用を補助することで、生徒の学習意識を高め、学力向上を図る。		
平成30年度の実績	<p>&lt;中学生検定サポート事業(英語検定)&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学3年生を対象に、英語検定3級以上の受検者の受検料を1人1回全額補助した。</li> <li>・2次対策講座を、第1回検定に向けて2日間、第2回検定に向けて2日間、市内各公民館で実施した。</li> </ul> <p>&lt;中学生検定サポート事業(数学検定)&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学2年生を対象に、数学検定5級以上の受検者の受検料を1人1回全額補助した。</li> <li>・深谷市チャレンジで数検に準ずる問題を出題し、これまでの学習内容・技能がどこまで身に付いているかを把握した。</li> </ul>		
	指標名	実績値	指標別コメント
	英語検定3級以上取得率	34.0%	平成29年度の取得率20%と比べると上回っているが、目標値50%は達成できなかった。
	数学検定4級以上取得率	50.3%	目標値の50%を上回ることができた。
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語検定では、平成29年度の取得率より大幅に上回ることができた。</li> <li>・数学検定では、生徒自身がこれまでの学習内容・技能がどこまで身に付いているかを把握することができた。意欲的に高いレベルの級にも挑戦しており、学習意欲が高まっている。</li> </ul>	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点施策名	授業力の向上	担当課	学校教育課
概要	授業の具体的な型を示した「深谷市授業スタンダード」、「深谷市スタイル」、「授業ベーシック」の徹底により、授業の質的向上を図る。		
平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内小・中学校を指導主事が学校訪問し、教員の指導力向上が図れるよう指導・助言をした。</li> <li>・「深谷市授業スタンダード」の徹底を図るため、深谷市スタンダード・プロモート・スタッフ(S・P・S)による国語、算数、外国語等の授業公開を実施した。</li> <li>・S・P・S教員の授業映像DVDの活用により、教員の意識啓発と授業力向上のための機会を設けた。</li> <li>・「こころざし深谷教師塾」により、はつらつ先生、長期研修教員、教育研究所指導委員の授業公開を実施した。</li> </ul> <p>【市教育委員会が主催し、実施した研修会】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初任者研修、セカンドステップ研修(2年次研修等)を実施した。</li> <li>・臨時的任用教員研修会を実施し「深谷市授業スタンダードを生かした授業実践事例」を各教員が作成した。</li> <li>・小学校外国語指導法研修会、中学校英語指導法研修会を実施した。</li> </ul>		
	指標名	実績値	指標別コメント
	指導主事による学校訪問数	29校	全小・中学校(29校)の学校訪問をし、指導主事による指導・助言を行った。また、校内研修会等における指導者として、授業力の向上を図れるよう指導・助言をした。
	「こころざし深谷教師塾」及び「S・P・S授業公開」に参加した人数	93人	平成29年度の85人より参加者が増加している。
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	現状の水準を維持しながらも、増加する若手教員の早期育成支援等を図り、さらなる授業力向上の取組を引き続き推進する。学習指導要領改訂(小学校R2年度から、中学校R3年度からの全面实施)を踏まえ、教員の授業力向上を図っていく。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

## 重点施策評価表

重点施策名	学力調査を活用したPDCAサイクルの確立		担当課	学校教育課
概要	国、県、市の学習状況の調査結果と自校の結果を比較・分析し、課題の把握と指導改善に活用する。			
平成30年度の実績	【全国学力・学習状況調査の活用】 ・調査結果から、下位層を減らし上位層も増やす授業づくりを進めるため、単元全体をイメージし逆向き設計による授業デザインシートを作成した。			
	【埼玉県学力・学習状況調査の活用】 ・小・中学校において、児童生徒それぞれの学力の伸びを把握し、授業改善をしていくための資料として活用した。			
	【NRT・NINOの活用】 ・全小学校(19校)において、NRTの結果をもとに基礎学力の向上が必要な児童を選出し、それらの児童を対象とした「ふっかちゃん夕焼け計算道場」(9月～3月)を実施した。			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	学力向上プランの作成	100%	全小・中学校(29校)で学力向上プランを作成し、自校の課題の把握と指導改善に活用した。	
学力向上担当者会議実施回数	1回	県から指導者を招き、県の学習状況調査の活用方法の研修会を行った。		
NRT・NINO授業改善や学力向上のために活用した学校の割合	100%	調査結果だけでなく、付属のプリントなども活用した。		
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業デザインシートを作成し、PDCAサイクルの確立を推進していく。</li> <li>・全小・中学校(29校)で、様々な学力調査の結果を分析し、課題の把握と指導改善に活用されている。</li> </ul>		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策名	アシスタントティーチャー等の配置		担当課	学校教育課
概要	少人数指導を充実するとともに、小学校におけるアシスタントティーチャーの配置、専科指導の充実などを推進する。			
平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全小学校(19校)に19名のアシスタントティーチャーを配置した。</li> <li>・全小学校(19校)に教科支援エキスパートを配置した。</li> <li>・小学校低学年を中心に、チーム・ティーチング授業を実施することができた。</li> </ul>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	アシスタントティーチャー配置率	100%	全小学校(19校)にアシスタントティーチャーを配置した。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	児童の基礎学力の定着を図るために、主に低学年を中心に授業の補助を行うことができた。また、学習のつまずきの早期発見、早期対応を図ること、基本的な生活習慣を身につけさせることなど、きめ細かな指導をすることができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

施策名	郷土深谷を愛し国際性を育む教育の推進			点検評価表 作成課	学校教育課				
施策の方向性	○伝統と文化を尊重し、日本人としての誇りを持ち、我が国と郷土深谷を愛する態度を養う。 ○国際理解教育を推進するとともに、小学校の外国語の授業を充実させるため、地域人材を活用するなど、質の高い外国語教育を推進する。また、中学校の英語教育の充実を図る。 ○帰国・外国人児童生徒等への日本語指導など、学校や社会生活への適応を図るために必要な支援を行う。								
施策に関連する 主な取組	○伝統と文化を尊重する教育の推進								
	○国際性を育む教育の推進								
	○小学校段階からの質の高い外国語教育の推進								
	○帰国・外国人児童生徒などへの教育の充実								
指標名	児童生徒の英語学習に対する積極的な態度								
成果 指標	指標の説明	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	令和2年度 実績値	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値	
	外国語活動・英語の授業に関するアンケート調査の「外国語活動の時間は楽しいですか」「英語の時間は楽しいですか」の質問に「とてもあてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した児童生徒の割合	小学校	96.0%	92.8%	92.2%				
		中学校	87.8%	84.1%	87.2%				
		現状値 (平成28年度)	小学校 中学校	96.0% 87.8%	→	目標値 (令和4年度)	小学校 中学校	97.0% 90.0%	

平成30年度 重点施策	○ふるさと教育の推進 ○国際化教育推進事業 ○外国語指導力向上事業 ○日本語指導職員配置事業		
平成30年度 実績	○伝統と文化を尊重する教育の推進  ○国際性を育む教育の推進 ・全小・中学校(29校)に外国語指導助手(ALT)16名を配置し、小学校3年生～中学校3年生が、週に1回、ALTとの授業を受けた。 ・小学校3～6年生を対象として、1日中英語を使って各種活動に取り組む「英語王国」を実施し、延べ50名が参加した。  ○小学校段階からの質の高い外国語教育の推進 ・文部科学省から教育課程の特例(小学校3・4年生から外国語活動を行う)を受け、小学校3年生から週1回外国語活動を実施した。 ・小学校高学年の英語教科化に向け、小学校を5ブロックに分け、研究テーマを設定し、指導力向上のための研修を実施した。意識調査において、「英語の時間が楽しい」と答えた児童が92%を超え、「授業中積極的に英語を使っている」生徒が84%を超えた。 ・深谷市英語教育小中一貫CAN-DOリストを作成し、英語教育の充実を図った。  ○帰国・外国人児童生徒などへの教育の充実 ・日本語指導を必要とする外国籍児童のために、市費日本語指導員(8名)を、小学校13校、中学校5校に配置した。		
総合評価	<b>A</b>	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない	
課題	文部科学省が提唱するグローバル化に対応した英語教育改革実施計画に基づき、2020年を見据え、英語教育において多くの変革が求められている。特に小学校5・6年生での教科化や、それに伴う時数の確保、指導者の指導力向上、小中一貫のカリキュラムの構築など行っていく必要がある。		
評価コメント	・全小・中学校(29校)にALTを配置したことで、小学校3年生～中学校3年生の児童生徒が毎週本物の英語に触れることができた。 ・教育課程の特例による外国語活動や英語教科化に向けた指導力向上の研修を行い、授業で積極的に英語を使う生徒の割合も増加した。 ・意識調査において、目標値には達していないが小学校で92%、中学校で87%の児童生徒が「英語の時間が楽しい」と回答した。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。		
意見・提言	・こども学びスタin深谷は、来場者数が非常に多く、満足度も高いので、このような取組は積極的に実施してほしい。 ・英会話を充実させ、子供たちが日常会話程度の英語を喋れるようになってほしい。		



# 重点施策評価表

重点施策名	ふるさと教育の推進	担当課	学校教育課										
概要	地域と協働し、伝統や文化について体験的に学ぶ機会や道徳教育を充実させ、ふるさとを愛し、誇りに思う児童生徒を育成する。												
平成30年度の実績	<p>【取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「深谷こころざし読本」を活用し、栄一翁の思いや願い、生き方に触れ、ふるさとを誇りに思う児童生徒を育成した。</li> <li>・地域の先生である「ふるさと先生」による道徳科の授業等で、「深谷こころざし読本」を活用し、「ふるさと先生」から栄一翁の生き方等を語ってもらい、理解の深化を図った。</li> <li>・「こども学びスタin深谷」の実施</li> </ul> <p>期日：平成30年11月25日（日） 12:30～16:45            会場：深谷市民文化会館            内容：深谷の心を紡ぐ「ふるさと教育」の展示（各小中学校のふるさと教育の展示）            子どもの暗唱を楽しむ会（深谷地方ユネスコ協会と主催）            青少年健全育成深谷市民大会（深谷市子どもサポート会議と主催）</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来場者数 約4,600人</li> <li>・主要な行事を一つにまとめ、多くの地域の方や保護者に、深谷の子供たちのがんばりを見ていただき、学校、地域、家庭で子供たちを認め励まし、総ぐるみで未来の深谷を担う自覚を持った子供たちを育成した。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「こども学びスタin深谷」は、複数のイベントが同時開催するため、1つのイベントに参加していると他のイベントを見ることができない。</li> <li>・「ふるさと先生」の授業を充実させるために、学校の行事のカリキュラムに位置づけることが必要である。</li> </ul>												
	担当課評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>実績値</th> <th>指標別コメント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>「こども学びスタin深谷」来場者の満足度(アンケート)</td> <td>91.6%</td> <td>「こども学びスタin深谷」に来場した方の多くに満足していただき、子供を地域総ぐるみで育てる意識を高められた。</td> </tr> </tbody> </table>	指標名	実績値	指標別コメント	「こども学びスタin深谷」来場者の満足度(アンケート)	91.6%	「こども学びスタin深谷」に来場した方の多くに満足していただき、子供を地域総ぐるみで育てる意識を高められた。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価区分</th> <th>評価コメント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>各学校区で行っている地域と協働したふるさと教育を展示することで、地域間の情報共有ができた。地域総ぐるみで子供を育てよう意識を高め、そのような大人と接することで、ふるさとに誇りをもち、次代を担う自覚を持った子供の育成につながっている。</td> </tr> </tbody> </table>		評価区分	評価コメント	1
指標名	実績値	指標別コメント											
「こども学びスタin深谷」来場者の満足度(アンケート)	91.6%	「こども学びスタin深谷」に来場した方の多くに満足していただき、子供を地域総ぐるみで育てる意識を高められた。											
評価区分	評価コメント												
1	各学校区で行っている地域と協働したふるさと教育を展示することで、地域間の情報共有ができた。地域総ぐるみで子供を育てよう意識を高め、そのような大人と接することで、ふるさとに誇りをもち、次代を担う自覚を持った子供の育成につながっている。												
評価区分の考え方（1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討）													

# 重点施策評価表

重点施策名	国際化教育推進事業		担当課	学校教育課
概要	各小・中学校に外国語指導助手(ALT)を配置し、英語指導の充実を図り、国際性を育む教育を推進する。			
平成30年度の実績	<p>【外国語指導助手の配置】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・採用人数 16名</li> <li>・雇用形態 労働派遣契約</li> <li>・雇用期間 平成28年度より3ヶ月のクーリング期間がなくなり、1年を通じて雇用が可能となった。</li> </ul> <p>【実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全小・中学校(29校)に、学校規模に応じて、週当たり1～5日ALTを配置した。</li> <li>・小学校3～6年生が、週に一度の外国語活動の時間に、担任とALTによるチーム・ティーチングを受けられるように、ALTを配置した。中学校では、全ての生徒が週に一度以上は教科担任とALTによるチーム・ティーチングを受けられるように、ALTを配置した。</li> <li>・本物の英語に触れることで、子どもたちの国際性が高まり、英語によるコミュニケーションを図ろうとする意欲が出てきている。</li> <li>・国も、義務教育段階の英語教育の推進を図っている。</li> </ul>			
		指標名	実績値	指標別コメント
		ALTの年間授業時間の目標値を達成した割合	84.0%	目標の授業時間を12,240時間としていたが、10,276時間の授業を行ったため、84.0%の達成割合となった。
		外国語(英語)の学習を楽しんでいる児童の割合(小3～小6)	92.2%	平均値が90%を超えるのは非常に高い数値であり、全国的なデータと比較しても、深谷市では英語好きの児童が非常に多いといえる。
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	ALTによる授業を必要とする学級数(269学級、29校)から、最も効率よく運営するための最少人数(16名)を算出し、これまで以上の授業回数を全ての学校で実施することができた。また、英語好きな児童生徒が非常に多いことから、ALTの存在と彼らを活用する学級担任の指導技術が上手にかみ合っていると見える。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

## 重点施策評価表

重点施策名	外国語指導力向上事業	担当課	学校教育課
概要	英語アシスタントティーチャーの配置や、英語検定料補助により、学習意欲向上や質の高い授業作りを推進する。		
平成30年度の実績	<p>【教育課程の特例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文科省から研究開発の指定を受け、教育課程の特例を設けている。このため、他の自治体と違い、深谷市では小学校3年生から週1回、外国語活動を行った。</li> </ul> <p>【深谷市英語教育一貫教育プランの作成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全小・中学校(29校)の標準的な指導モデルを作成し、各学校の特色を生かしながら外国語(英語)の授業を行った。</li> </ul> <p>【外国語教育推進委員会の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各小・中学校から1名の教師を委員として招集し、新学習指導要領への移行準備のための協議を行った。</li> </ul> <p>【指導法研修会の開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全小学校教師の希望者を対象として、小学校外国語活動指導法研修会を1日実施した。(平成22年度からの継続事業)</li> <li>市内小学校を5ブロック、市内中学校を2ブロックに分けて、テーマを設定し、指導法の研究を行い、授業研究会を実施した。研究の成果発表会を実施し、小・中学校教師が、校種を越えて研究協議を行う中で、教員の立場からの小・中連携を深めるとともに、指導法の改善を図った。</li> </ul> <p>【こころざし深谷国際塾の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>洪沢栄一翁の心を受け継ぎ、次代を担う人材育成を目的としている。対象は小学校5年生から中学校2年生までの希望者。平成30年度は、小学生18名、中学生9名、合計27名が参加した。JICA(国際協力機構)と連携して実施している深谷市独自の取組である。</li> <li>3日間にわたって実施され、英語での体験学習、JAICAの見学、英語でのまとめと発表等を行った。</li> </ul> <p>【英語王国の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体験を通して英語を楽しく学習することを目的としている。対象は小学校3～6年生の希望者。夏季休業期間中に1日間実施し、平成30年度は、延べ50名が参加した。</li> <li>料理やスポーツなどの体験を、全て英語で行うなど、英語漬けの一日を過ごすことによって、日常生活の中で外国語を使用する機会としている。</li> </ul>		
	指標名	実績値	指標別コメント
	積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする児童(小6)の割合	85.1%	全国的には英語嫌いが増えてくる時期であるが、深谷市では8割超の児童が積極的に英語の授業に取り組んでいる。
	積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする生徒(中1)の割合	84.6%	小6とほぼ同等の数値となっており、教科学習となっても興味や関心をそれほど落とすことなく、小・中の接続がうまくいっていると言える。
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	ブロック毎に研究を進め、研修を行うことで指導力の向上が図られた。外国語教育推進委員会の取組を踏まえ、新学習指導要領への移行に向けて、小学校の指導力向上の取組を進めている。今後も文部科学省の動向をとらえながら、教育課程の編成や、小・中の接続において、適切な改善を加えられるようにしていく必要がある。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

# 重点施策評価表

重点施策名	日本語指導職員配置事業		担当課	学校教育課
概要	帰国・外国人児童生徒の学校生活への適応支援のため、日本語指導員による指導の充実を図る。			
平成30年度 の実績	<p>【外国籍の児童・生徒が日本語を理解し、学級で授業が受けられるようにサポート】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語指導員8名が日本語指導を必要とする児童生徒の在籍する学校へ週2回または週1回(1日3時間)訪問し、支援した。</li> <li>・日本語指導員の研修会を年3回実施した。</li> </ul> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友人や教員とのコミュニケーションが上手に取れるようになった。</li> <li>・高校入学試験の仕組みが理解できるようになった。</li> <li>・取り出しの授業から教室での一斉授業に参加できるようになった。</li> <li>・日本語指導員研修会により、指導員間で教材情報や個に応じた指導方法について共有することができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・勤務時間の関係で、学級担任と情報交換の時間が十分に確保できず連携した指導が難しい。</li> <li>・日本語指導を必要とする児童生徒の数は少数である。しかし、日本語指導を必要としている学校数は増えているため、1人の指導員の配置が複数校に渡り、配置が難しくなっている。</li> </ul>			
		指標名	実績値	指標別コメント
		日本語指導が必要な児童生徒の在籍する学校への配置	100%	日本語指導が必要な児童生徒の在籍する全小・中学校(29校)へ指導員を配置することができた。
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	<p>深谷市では、上柴地区などの商業地を中心に、外国籍児童生徒が多数在籍している。また、最近では旧川本地区や旧花園地区、旧岡部地区などの農村地域にも外国籍児童生徒の居住が増加してきた。外国籍児童生徒が、基礎的・基本的な日本語能力を身に付けることは、社会生活に適応し、生涯にわたって自立した生活を営むために必要な教育活動である。したがって、個に応じたきめ細かい指導ができる市費日本語指導員の果たす役割は大きく、学校運営上なくてはならない存在になっている。</p>		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				



施策名		時代の変化に対応する教育の推進				点検評価表 作成課	学校教育課		
施策の方向性		○子供たちの科学技術に関する興味・関心を高め、豊かな科学的素養や思考力を育成する。 ○児童生徒の発達段階に応じた情報活用能力を育成するとともに、プログラミング的思考を育成する。また、情報モラルについての理解を深める。 ○将来にわたって豊かな暮らしを実現する持続可能な社会の構築を目指した環境教育などを推進する。							
施策に関連する 主な取組		○科学技術教育の推進							
		○情報教育の推進							
		○社会的課題に対応する教育の充実							
指標名		授業中にICTを活用して指導することができる教員の割合							
成果 指標	指標の説明	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	令和2年度 実績値	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値	
	国の「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」において、「授業中にICTを活用して指導する事ができる」の調査項目に「わりにはできる」「ややできる」と回答した割合	小学校	96.1%	94.4%	10月頃確定予定				
		中学校	88.3%	84.2%	10月頃確定予定				
		現状値 (平成28年度)	小学校 中学校	96.1% 88.3%	➔		目標値 (令和4年度)	小学校 中学校	100% 100%

平成30年度 重点施策	○理科好きな子どもの育成 ○小・中学校ICT整備事業 ○環境教育・福祉教育の推進	
平成30年度 実績	○科学技術教育の推進 ・こころざし深谷科学塾を8月22日(水)に実施し、小学生12人、中学生3人の計15人が参加した。 ・『飲み水の科学!!』をテーマとして、埼玉県立川の博物館での実習、岡部浄水場とクリクラ本庄工場の見学を行った。  ○情報教育の推進 ・小学校3校、中学校6校のコンピュータ室の入替を行い、タブレットPCにもなるハイブリッド型PCを導入した。 ・ICTを活用した授業が小・中学校とも、およそ2時間に1回行われた。  ○社会的課題に対応する教育の充実 ・校務支援システムを更新し、全小・中学校(29校)において指導要録と出席簿の電子化が定着し、全校で実施されている。 ・小・中学校の教職員を対象として、情報モラルに関する研修、タブレットの活用についての研修を行った。	
総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる    A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない        C:まったく進んでいない
課題	文部科学省の教育の情報化ビジョン(平成23年4月)に示された、21世紀にふさわしい学校教育環境(1人1台のタブレット型端末、校務支援システム等)の実現および新学習指導要領に対応した機器の入替え・整備を今後も継続していく必要がある。	
評価コメント	・パソコンの整備については、見直しを行い、機器を有効に活用できるようハイブリッド型PCの導入を進めた。 ・研修を充実させることにより、教職員が授業でICTを活用する場面が増えており、小・中学校ともに、およそ2時間に1回の割合でICTを活用した授業が行われている。 ・ICTを活用した指導力に関しても、高い水準を維持している。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	

意見・提言	・パソコンの整備率は、県と比較しても高い値を示しており、長年の取組の成果が出ている。 ・こころざし深谷科学塾は、理科好きの児童生徒を育成するために良い取組であるため、継続してほしい。
-------	--

## 重点施策評価表

重点施策名	理科好きな子どもの育成	担当課	学校教育課
概要	<p>こころざし深谷科学塾では、科学関連企業や大学等と連携した体験型のプログラムを通して、科学を学ぶ楽しさを実感してもらい科学的な素養を育成する。</p>		
平成30年度の実績	<p>【第1回こころざし深谷科学塾】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こころざし深谷科学塾を8月22日(水)に実施し、小学生12人、中学生3人の計15人が参加した。</li> <li>・『飲み水の科学!!』をテーマとして、埼玉県立川の博物館での実習、岡部浄水場とクリクラ本庄工場の見学を行った。</li> </ul>		
	指標名	実績値	指標別コメント
	「こころざし深谷科学塾」の参加者数	15人	科学に関心の高い子供が参加し、事業に満足していることは、実施後に提出される作文にも表れている。
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	2	参加者は科学に興味を持ち、熱心に活動に取り組んでいた。身近な事象に対する科学的な見方、考え方を意識し学習していた。参加人数を増やすためのテーマ設定や、その他の企画等も検討していく必要がある。	
<p>評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)</p>			

重点施策名	小・中学校ICT整備事業	担当課	学校教育課
概要	<p>ICT支援員を配置し、ICT機器の有効活用や児童生徒の情報活用能力の向上を図るとともに、プログラミング教育の導入・推進に努める。</p>		
平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校3校、中学校6校のコンピュータ室の入替を行い、タブレットPCにもなるハイブリッド型PCを導入した。</li> <li>・ICTを活用した授業が小・中学校とも、およそ2時間に1回行われた。</li> <li>・各小・中学校のホームページの「緊急連絡サイト」を活用し、大雨等の緊急時に活用した。</li> </ul>		
	指標名	実績値	指標別コメント
	PC1台あたりの児童生徒数 (平成30年度はまだ結果が公表されていないため、平成29年度の実績値)	5.8人/台	PC整備率は、県内40市の中でトップクラスの整備率となっている。県は7.9人/台である。
授業中にICTを活用して指導できる教員の割合 (平成30年度はまだ結果が公表されていないため、平成29年度の実績値)	89.3%	普通教室のICT環境を整備後、研修等を実施し、高い水準を維持している。県は77.3%である。	
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	ハイブリッド型PCなどの導入により、PCの活用幅が広がった。文科省の教育の情報化ビジョン(平成23年4月)に示された21世紀にふさわしい学校教育環境(1人1台のタブレット型端末)の実現に向け、今後も機器の入れ替えに伴う整備を継続していくとともに、ネットワーク環境の更新や新学習指導要領に対応した整備を進めていく必要がある。	
<p>評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)</p>			

## 重点施策評価表

重点施策名	環境教育・福祉教育の推進		担当課	学校教育課
概要	各教科や総合的な学習の時間を活用し、環境保全や福祉に関する積極的な態度を養う。			
平成30年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全小学校(19校)で、まごころ訪問(市の65歳以上の独り暮らしの高齢者世帯に花束と手紙を贈る)を実施した。(1, 864世帯)</li> <li>・南中学校、幡羅中学校、花園中学校で、生徒会を中心にした地域との交流を深める活動を行った。</li> </ul>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	まごころ訪問の開催校数	19校	全小学校(19校)で実施することができた。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	全小学校(19校)でまごころ訪問が継続できているので、今後も続けていきたい。中学校では、生徒会を中心に、地域との交流を深める活動を進めていきたい。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				





施策名		夢を育み志を実現するキャリア教育の推進			点検評価表 作成課	学校教育課			
施策の方向性		○小学校の段階から教育活動全体を通じ、組織的・系統的なキャリア教育を推進する。 ○将来働くことについて意欲や関心を持てるように、地域・企業などと一体となって、職場での体験活動の充実を図る。 ○経済的な支援を通じ、意欲と能力のある者が安心して学ぶことができる環境づくりを推進する。							
施策に関連する 主な取組		○発達段階に応じたキャリア教育の充実							
		○中・高の連携によるキャリア教育の推進							
		○教育における経済的支援の充実							
指標名		「将来の夢や目標を持っている」児童生徒の割合							
成果 指標	指標の説明	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	令和2年度 実績値	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値	
	「将来の夢や目標をもっている」という設問に対し、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した児童生徒の割合	小学校	89.4%	90.9%	88.5%				
		中学校	79.0%	81.4%	82.5%				
		現状値 (平成28年度)	小学校 中学校	89.4% 79.0%	→	目標値 (令和4年度)	小学校 中学校	93.0% 80.0%	

平成30年度 重点施策	○小・中学校のキャリア教育の充実 ○校種間のなめらかな接続	
平成30年度 実績	○発達段階に応じたキャリア教育の充実 ・小学校低学年での「がっこうたんけん」、中学年での「まちたんけん」、高学年での「社会科見学」をとおり、視野を広げる活動を全校で実施した。 ・全小学校(19校)で、4年生を対象に「1/2成人式」を実施し、中学2年生での「立志式」へとつなげた。 ・全中学校(10校)で、1年生での「職業調べ」、2年生での「立志式」、3年生での「高校説明会への参加」(といった活動)を実施した。 ・全中学校(10校)2年生で、社会体験チャレンジ事業(職場体験学習)を実施した。  ○中・高の連携によるキャリア教育の推進 ・中高連絡協議会を深谷市内・寄居町内高等学校との協議会を2回、熊谷市内高等学校との協議会を2回実施し、進路指導・キャリア教育の視点に立った協議を行った。  ○教育における経済的支援の充実 ・経済的理由により就学困難と認められる小・中学校の児童生徒の保護者に対し、就学援助及び特別支援教育就学奨励を実施した(就学援助支給者859人、特別支援教育就学奨励支給者118人)。 ・経済的理由により就学が困難な高等学校等の生徒に対し、奨学金を支給した(支給者28人)。 ・大学などへ入学するかたの保護者のうち、金融機関の貸し付けを受けた方に対して、利子の一部を助成した(助成者24人)。	
総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
課題	・小学校段階、中学校段階、それぞれキャリア教育の取組が行われているが、それぞれの取組に結びつけられるよう意識した指導が必要である。小・中学校の連携を図り、小中一貫の視点を持ち、今後更なる工夫をしていくことが必要である。 ・社会体験チャレンジにおいては、多様性のある事業所の確保が課題となっている。	
評価コメント	・全小学校(19校)の4年生で1/2成人式を、全中学校(10校)の2年生で立志式を実施できた。 ・中学生社会体験チャレンジ事業(職場体験学習)では、推進委員会での情報交換や深谷商工会議所やふかや市商工会等の協力を得て、より円滑に生徒の希望に応じた職場体験を実施することができた。平成30年度は357箇所の受け入れ事業所に協力をいただき、計画通り安定した取組とすることができた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	

意見・提言	・職場体験学習は、多くの事業所の協力を得て行う大変な事業だが、生徒が職場を体験することは非常に良いことなので、なるべく多くの職場で受け入れてもらえると良いと思う。また、老人ホームなどでは、生徒がやってくることで利用者が喜ぶなど、企業にとってもプラスとなる事業なので、継続してほしい。 ・必要に応じて中学校の進路指導主事と高校の進路指導主事が情報を交換しており、お互いにとって有益だと思う。
-------	---

## 重点施策評価表

重点施策名	小・中学校のキャリア教育の充実		担当課	学校教育課
概要	小学校での職業に触れる体験や、中学校での職場体験や立志式等を通して、児童生徒の夢や志を育む。			
平成30年度の実績	<p>【発達の段階に応じたキャリア教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全小学校(19校)で、4年生を対象に「1/2成人式」を実施した。</li> <li>・産業祭に参加(深谷小、豊里小、深谷中、上柴中)</li> <li>・全中学校(10校)で、中学校1年生での「職業調べ」、2年生での「立志式」、3年生での「高校説明会への参加」といった活動を実施した。</li> <li>・全中学校(10校)2年生で、社会体験チャレンジ事業(職場体験学習)を実施した。</li> </ul> <p>【小・中・高における「なめらかな接続」の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科等において、小中一貫カリキュラムの作成を進め、中1ギャップ等の解消に取り組んだ。</li> <li>・中高連絡協議会を深谷市内・寄居町内高等学校との協議会を2回、熊谷市内高等学校との協議会を2回実施し、進路指導・キャリア教育の視点に立った協議を行った。</li> </ul>			
		指標名	実績値	指標別コメント
		小学校における「1/2成人式」の実施率	100%	全小学校(19校)で実施し、自己の成長について見つめ直す機会とすることができた。
	中学校における立志式の実施率	100%	全中学校(10校)で実施し、将来について考えを深め、自立・自律を促す機会となった。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	1/2成人式、立志式を全小・中学校(29校)で実施し、自己の夢やその実現に向けてのこころざしを持たせるための機会とすることができた。また、中高連絡協議会の実施により、生徒一人一人に適した進路指導をするための一助とすることができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策名	校種間のなめらかな接続		担当課	学校教育課
概要	中高連絡協議会を実施することで、中高の連携を図る。			
平成30年度の実績	<p>【中・高における「なめらかな接続」の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「中高連絡協議会」を開催した。(4回)</li> <li>・深谷市内・寄居町内高等学校との協議会を2回、熊谷市内高等学校との協議会を2回開催した。(対象:各中学校長、各高等学校長を基本とする。)</li> <li>・進路指導・キャリア教育の視点に立った協議を行った。</li> </ul>			
		指標名	実績値	指標別コメント
		中高連絡協議会の開催回数	4回	なめらかな接続を推進するため、深谷市内・寄居町内高等学校と熊谷市内高等学校との協議会をそれぞれ2回ずつ開催した。(1回目…6・7月、2回目…10月)
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	中高連絡協議会の開催により、市内中学校出身の生徒に関する情報交換や、本年度の入試状況等についての共通理解を図ることができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

施策名	多様なニーズに応じた特別支援教育の推進	点検評価表 作成課	学校教育課					
施策の方向性	○各学校において、教育的支援が必要な児童生徒に対する支援体制・教育相談体制を充実する。 ○校種間のなめらかな接続や学年間の引継ぎが図れるよう、個別の指導計画や個別の教育支援計画の作成に努める。 ○特別支援学級や通級指導教室において、一人一人の教育的ニーズを把握し、新設・増設などの対応を図る。							
施策に関連する 主な取組	○特別支援教育体制の充実 ○就学支援・相談の充実 ○特別支援教育の視点に立った指導の充実							
指標名	通常の学級に在籍する障害のある児童生徒の個別の指導計画の作成率							
成果指標	指標の説明	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	令和2年度 実績値	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値
	通級に通っている児童生徒、特別支援学級の弾力的運用で支援をしている児童生徒、発達障害等の診断を受けている児童生徒のうち、個別の指導計画を作成している児童生徒の割合	82.5%	76.5%	80.5%				
		現状値 (平成28年度)	82.5%		➡	目標値 (令和4年度)	85.0%	

平成30年度 重点施策	○児童生徒一人一人の教育的ニーズに合わせた支援の充実 ○早期からの就学支援・就学相談の充実 ○発達支援アドバイザーの配置と支援籍学習の推進		
平成30年度 実績	○就学支援・相談の充実 ・就学支援委員会を4回、小委員会を2回実施した。 ・巡回相談を63回(幼稚園9回、小学校38回、中学校16回)、学級学校支援相談を8回実施した。 ○特別支援教育の視点に立った指導の充実 ・特別支援教育コーディネーター合同研修会(通常の学級担任研修会を含む。)、巡回相談員研修会を実施した。 ・特別支援補助員研修会、特別支援教育担当者経験3年以下研修会を実施した。 ・発達支援アドバイザーが市内小中学校に79回訪問支援を実施した。		
総合評価	<b>A</b>	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる    A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない        C:まったく進んでいない	
課題	・合理的配慮の提供、指導事項等の次学年への引継ぎ、教職員間での共通理解を図るためにも、通常の学級に在籍する障害のある児童生徒の個別の指導計画の作成は有効であるため、作成率を目標値にまで引き上げることが課題である。 ・障害のある児童生徒一人一人が、小学校から中学校、中学校から高校にそれぞれなめらかに移行できるよう、支援をさらに充実させるとともに、通常の学級担任等の指導力の向上を図ることが必要である。		
評価コメント	・子供の教育的ニーズに合わせた多様な学びの場(支援籍学習や特別支援学級の弾力的な運用、通級指導教室など)を活用することにより、子供一人一人の教育的ニーズに合った教育的支援に取り組む体制が整ってきている。 ・幼稚園及び保育園への巡回相談や就学前相談を随時実施し、また、関係諸機関と緊密に連携することで、課題を持つ子供たちへの早期支援に繋げることができた。 ・新規事業である発達支援アドバイザーの学校訪問を計画的に実施することができた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。		

意見・提言	・発達支援アドバイザーの訪問により、各教職員が特別支援教育への理解を深め、支援が必要な児童生徒に寄り添った支援ができています。 ・インクルーシブ教育を行うなかで、周りの児童生徒から、支援するような場面が出てくると非常に良い。
-------	---

# 重点施策評価表

重点施策名	児童生徒一人一人の教育的ニーズに合わせた支援の充実	担当課	学校教育課
概要	個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、個に応じた多様な学びが実現できるよう学習環境を充実させる。		
平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学級及び通常の学級に在籍する児童生徒で特別の教育的支援を必要とする児童生徒の教育支援計画等を作成した。</li> <li>・巡回相談を実施し、幼児・児童、生徒一人一人のニーズを把握し、支援の目標と方法について検討した。</li> <li>・特別な教育的支援の必要な児童生徒に対し、各小・中学校における特別支援学級への弾力的な運用の活用をした。</li> <li>・教職員研修を次のとおり実施した。</li> </ul> 特別支援教育コーディネーター等合同研修会 2回 特別支援教育担当者研修会 1回 特別支援補助員研修 1回		
	指標名	実績値	指標別コメント
	通常の学級で障害のある児童生徒の個別の教育指導計画作成率	80.5%	通常の学級に在籍している障害を持った児童生徒の一人一人の教育的ニーズに合わせた教育指導計画を作成する。
	巡回相談実施回数(幼・小・中の合計)	63回	幼児・児童・生徒一人一人のニーズを把握し、支援の目標と方法について検討し、園・校内での支援体制を整備する。
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	巡回相談や教職員研修、発達支援アドバイザーの訪問を行った。そのことにより教職員へ特別支援教育の理解を深め、適切な支援につなげることができた。「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成率も上昇し、児童生徒の一人一人の教育的ニーズに合わせた支援の充実が図られている。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

## 重点施策評価表

重点施策名	早期からの就学支援・就学相談の充実	担当課	学校教育課
概要	教育・福祉の連携を生かし、早期からの就学支援・就学相談の充実を図る。		
平成30年度 の実績	<p>【教育・福祉の連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育・福祉連携推進委員会による各関係機関との連携を行った。</li> <li>・就学支援の充実や就学を迎える保護者の集い、保護者支援の充実（保護者講演会・教育相談）、深谷市の支援マップの作成及びサポート手帳の活用等を行った。</li> </ul> <p>【幼保小中高の連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼保小中連絡協議会の開催、小中連携巡回相談、ケース会議の充実及び中高連絡協議会等を開催した。</li> </ul>		
	指標名	実績値	指標別コメント
	就学を迎える保護者の集い参加者数	35名	35名のうち25名が個別相談へとつながった。25名については、就学が決まるまで丁寧に面談を行った。
	幼保小中連絡協議会開催回数	2回	平成30年度から第2回幼保小中連絡会は小学校会場の情報交換会とした。小中連携がよりよくなってきた。
就学支援委員会の開催	4回	平成30年度は101名の児童生徒について就学支援委員会で協議を行い、適切な就学につなげることができた。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント	
	1	早期からの支援を行うためには、幼稚園、小・中学校、各関係機関等の連携が重要である。就学を迎える保護者の集いは、毎年参加者が増えており、適切な就学につなげることができている。幼保小中連絡協議会では、園と学校が直接顔を合わせて話し合うことで、教育や子供に関して、相互に理解を深めることができた。	
評価区分の考え方（1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討）			

## 重点施策評価表

重点施策名	発達支援アドバイザーの配置と支援籍学習の推進		担当課	学校教育課
概要	発達支援アドバイザーを新たに配置し、特別支援教育の視点に立った指導の充実に努める。また、支援籍学習を推進する。			
平成30年度の実績	<p>【特別支援学校支援籍】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小・中学校の児童生徒が、特別支援学校の学級に入り、学習を行った。</li> </ul> <p>【通常学級支援籍】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学校の児童生徒が、通常の学級に入り、学習を行った。</li> </ul> <p>【発達支援アドバイザーによる訪問支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内小中学校の特別支援学級等の訪問支援を行った。(年間79回)</li> <li>・担任の先生や学校へ指導助言を行った。</li> </ul>			
		指標名	実績値	指標別コメント
		特別支援学校支援籍者数	13名	特別支援学校で学習を行った、通常学級の児童生徒数は、13名(平成29年度は14名)であった。
		通常学級支援籍者数	30名	通常学級で学習を行った、特別支援学校の児童生徒数は、30名(平成29年度は40名)であった。
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	支援籍学習により、障害理解や個に応じた支援を進めることができた。発達支援アドバイザーを配置することにより、教職員の専門性の向上や特別支援教育の理解を図ることができ、特別支援教育の視点に立った指導の充実に図ることができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

施策名	まごころと思いやりを育む教育の推進		点検評価表 作成課	学校教育課				
施策の方向性	○特別の教科道徳の指導の充実を図るとともに地域の特色を生かした道徳教育を推進する。 ○深谷の子「6つの誓い」の活用や、規律ある態度の調査結果を踏まえ、地域の特色を生かした体験活動の充実を図る。 ○学校における子供たちの豊かな読書活動を推進する。							
施策に関連する 主な取組	○道徳教育の充実							
	○深谷の子「6つの誓い」の推進							
	○読書活動の推進							
指標名	深谷の子「6つの誓い」達成率							
成果 指標	指標の説明	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	令和2年度 実績値	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値
	「夢に向かって努力する」、「毎日勉強する」、「たくさん挑戦、体験する」、「すすんであいさつする」、「脱いだくつをそろえる」、「心のこもったことばをつかう」の6項目を実践している児童生徒の割合	93.4%	93.5%	93.4%				
		現状値 (平成28年度)	93.4%		→	目標値 (令和4年度)	94.0%	

平成30年度 重点施策	○深谷ころごし読本の活用 ○深谷の子「6つの誓い」の推進 ○子供読書活動の推進	
平成30年度 実績	○道徳教育の充実 ・渋沢栄一ころごし読本又は深谷ころごし読本を、全小・中学校(29校)のカリキュラムに入れ込み、活用した。 ・全小・中学校(29校)にふるさと先生を派遣した。(小学校21回、中学校14回) ・青淵・ころごし歳時記を朝の読書活動など教育活動で活用した。 ・深谷ころごし読本を小学校1年、小学校4年、中学校1年に配布し、道徳科の授業を中心に各教育活動で活用した。 ・青淵・ころごし歳時記及び深谷ころごし読本を、図書館、公民館等に設置した。 ・こども学びスタイン深谷の深谷の心を紡ぐふるさと教育の展示において、各校のふるさと教育の取組を市内に発信した。 ・全小学校(19校)で、まごころ訪問(市の65歳以上のひとり暮らしの高齢者世帯に花束と手紙を贈る)を実施した。(1,864世帯) ・手紙でつむぐ「ありがとう」の思い手紙文の募集(応募総数12,099点)及び表彰、作品集(第11集)の作成及び配布を行った。  ○深谷の子6つの誓いの推進 ・全幼稚園(9園)の4歳児及び全小学校(19校)の1年生に深谷の子6つの誓いのチラシを配布した。  ○読書活動の推進 ・小・中学校に司書教諭を発令した。(28校※明戸中学校は司書教諭の資格がある職員がいなかったため) ・全小・中学校(29校)に学校司書を配置した。 ・ふかやふれあい必読書50を選定した。 ・1人当たりの年間貸出し冊数(小学校51.1冊 中学校6.2冊)	
総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
課題	・手紙でつむぐ「ありがとう」の思いにおける、一般(高校生、大学生を除く)の応募数を増やすことが必要である。 ・6つの誓いの目標値を超えるため、各家庭、地域の協力を得る必要がある。	
評価コメント	・青淵・学びの郷づくり事業の特色ある心の教育の取組として、ころごし読本及びふるさと先生の積極的な活用のほか、手紙でつむぐ「ありがとう」の思い手紙作文の募集、まごころ訪問などを積極的に行い、渋沢栄一翁の心を受け継ぐ教育の推進を図ることができた。 ・成果指標については、目標値を超えることができていないが、高水準を保っている。 ・以上のことから、総合評価はAとする。	

意見・提言	・渋沢栄一は非常に大きな財産で、道徳教育にとっても大きな力となっているので、このような取組を引き続き進めてほしい。 ・渋沢栄一のころごしは素晴らしい。深谷で推奨していくことは大事である。児童生徒には、ころごし読本などで、学んでほしい。
-------	--



## 重点施策評価表

重点施策名	深谷こころざし読本の活用		担当課	学校教育課
概要	深谷の三偉人の生き方から学ぶ「深谷こころざし読本」を活用するとともに、次代の人材を育成するために、「ふるさと先生」を派遣し、道徳教育の充実に努め、ふるさとを愛し、誇りに思う児童生徒を育成する。			
平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 渋沢栄一記念館資料解説員をはじめ、元教育長や元校長等を講師として派遣し、深谷市の地域の特色を生かした道徳教育の推進と道徳の時間の充実が図れた。</li> <li>・ 「深谷こころざし読本」の積極的な活用を図れた。</li> <li>・ 全小・中学校(29校)に「ふるさと先生」を派遣した。(小学校21回、中学校14回)</li> <li>・ 道徳の教科化に伴い、全小・中学校(29校)で「深谷こころざし読本」をカリキュラムに取り入れた。</li> </ul>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	「ふるさと先生」活用率	小学校100% 中学校100%	全小・中学校(29校)に派遣できた。	
担当課評価	「深谷こころざし読本」年間指導計画への位置付け		小学校100% 中学校100%	全小・中学校(29校)で計画し実施している。
	評価区分	評価コメント		
	1	「青淵・学びの郷づくり」事業の特色ある心の教育の取組として、全小・中学校(29校)へ「ふるさと先生」を派遣することで、「深谷こころざし読本」の活用もより積極的になり、渋沢栄一翁の心を受け継ぐ教育の推進を図ることができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策名	深谷の子「6つの誓い」の推進		担当課	学校教育課
概要	渋沢栄一翁が生涯を通じて大切にしたい立志の精神と忠恕の心を受け継ぐ「6つの誓い」を通して、子供の心の芯を鍛える。			
平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼稚園、小・中学校の園児・児童・生徒には前年までに配布済みになっているので、各幼稚園の4歳児、小学1年生に、深谷の子「6つの誓い」のチラシを配布し、各家庭に周知した。市役所、公民館及び総合支所にチラシを配布した。</li> <li>・ 深谷市教育委員会のホームページに掲載し、各校の「6つの誓い」についての取組を紹介するとともに、各園、小・中学校のホームページでも随時取組を紹介した。</li> <li>・ 市内の各種団体(子どもサポート市民会議、深谷市PTA連合会等)の集会でチラシを配布し、取組を紹介した。</li> <li>・ 手紙でつむぐ「ありがとう」の思いの内容例の中に、「6つの誓い」の取組を通した「ありがとう」の思いを入れ、募集した。</li> </ul>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	幼稚園、小学校への深谷の子「6つの誓い」のチラシの配布率	100% (28/28)	全幼稚園(9園)の4歳児及び小学校(19校)の1年生に深谷の子「6つの誓い」のチラシを配布した。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	深谷市教育委員会のホームページで各学校の取組を紹介するなど、各学校を支援することができた。各種団体の集会時に、チラシを配布するなど、市民への周知を図ることができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

## 重点施策評価表

重点施策名	子供読書活動の推進		担当課	学校教育課
概要	「深谷市子供読書活動推進計画」のもと、学校における図書館教育の充実や「ふかやふれあい必読書50」の選定など、子供たちが読書活動に親しめるように努める。			
平成30年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全小・中学校(29校)へ学校司書を配置した。</li> <li>・学校司書研修会では、学校司書の業務等の充実を図ると共に、優れた取組の共有を図った。また、中学校区毎の意見交換を2回実施し、小・中の連携が図れた。(第1回平成30年11月1日。第2回平成31年3月20日。)</li> <li>・児童生徒への朝読書の実施や読書月間・旬間・週間の設定、学年ごとに年間目標冊数の設定等の読書活動の充実等を図った。</li> </ul>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	学校司書(市費臨時職員)の配置	100% (29校/29校)	全小・中学校に配置した。	
	1人当たりの年間図書貸出し数 小学校	51.1冊	平成29年度(52.6冊)より減少した。	
	1人当たりの年間図書貸出し数 中学校	6.2冊	平成29年度(7.8冊)より減少した。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	2	学校司書研修会では、学校司書の業務等の充実を図ると共に、優れた取組の共有を行うことができた。また、「ふかやふれあい必読書50」の活用を含め、一人当たりの貸出し数を増やしていきたい。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				



深谷市イメージキャラクター  
ふっかちゃん

郷土の偉人  
澁沢栄一

施策名		いじめ・不登校の防止			点検評価表 作成課	学校教育課		
施策の方向性		○深谷市いじめ問題対策連絡協議会などにおいて、関係機関と連携し、市全体としていじめ防止に取り組む。 ○不登校を未然に防止し、早期に対応するため、教育相談活動などの充実に努める。 ○中学校における不登校や、高校における中途退学を防ぐために、学校種間の連携を深める。						
施策に関連する 主な取組		○いじめ対策の推進						
		○不登校対策の推進						
		○小・中・高におけるなめらかな接続の推進						
指標名		不登校生徒の割合(中学校)						
成果指標	指標の説明	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	令和2年度 実績値	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値
	中学校の全生徒に占める不登校生徒の割合	1.20%	1.56%	1.48%				
		現状値 (平成28年度)		1.20%	➡	目標値 (令和4年度)		1.20%

平成30年度 重点施策	○いじめ防止基本方針に基づく関係会議の充実 ○総合的な不登校対策の推進 ○校種間のなめらかな接続	
平成30年度 実績	○いじめ対策の推進 ・深谷市いじめ問題対策連絡協議会と、深谷市いじめ問題専門委員会を開催した。 ・全中学校(10校)に学校総合支援員を配置した。 ・小学校3校、中学校10校にスクールライフサポーターを配置した。 ・いじめ状況等の調査の実施及び見届け(全小・中学校(29校)、毎月)を行った。  ○不登校対策の推進 ・「不登校対策小中連携シート」と「アセス(学校適応感尺度)」を活用し、学級全体の適応感や児童生徒個人の適応感を測り、いじめ・不登校の未然防止につなげた。 ・「小1プロブレム」対応のための学校アシスタントティーチャー(全小学校(19校))と、小1問題対応非常勤講師(小学校6校)を配置した。  ○小・中・高におけるなめらかな接続の推進 ・「中1ギャップ」対応のため、全小学校(19校)に小学校教科支援エキスパートと、小学校理科支援員を配置した。	
総合評価	<b>A</b>	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる    A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない        C:まったく進んでいない
課題	いじめ認知件数は増加傾向にあり、いじめの早期発見、早期対応がより重要となる。生徒指導体制、教育相談体制の充実を図り、学校、家庭、地域社会、関係機関等が連携して取り組んでいく必要がある。	
評価コメント	・いじめ対策については、深谷市いじめ問題対策連絡協議会や深谷市いじめ問題専門委員会を開催するなど、多くの取組を行った。 ・成果指標である不登校生徒の割合は、目標値には届いていないが、平成29年度及び県平均(平成29年度2.84%)を下回ることができた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	

意見・提言	・スクールライフサポーターの配置は、各校に安心感をもたらす良い取組である。 ・成果指標である不登校生徒の割合は、目標値が高く設定されているなか、県の平均値を大きく下回り、取組が良く進んでいる。今後は多面的な取組が大事になってくる。
-------	--

## 重点施策評価表

重点施策名	いじめ防止基本方針に基づく関係会議の充実		担当課	学校教育課
概要	いじめ問題対策連絡協議会、いじめ問題専門委員会等のいじめ防止に関係する機関及び団体との連携を図り、いじめ問題に関する施策を推進する。			
平成30年度 の実績	<p>【深谷市いじめ問題対策連絡協議会】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度開催日程</li> <li>第1回いじめ問題対策連絡協議会(深谷市教育庁舎)を行った。(6月22日)</li> <li>第2回いじめ問題対策連絡協議会(深谷市教育庁舎)を行った。(2月22日)</li> </ul> <p>【いじめ認知件数】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度深谷市内のいじめ認知件数は、小学校80件、中学校78件、計158件であった。</li> <li>・認知件数は平成29年度と比べると31件増えている。これは、「いじめの定義」の周知や実態把握のためのアンケート回数の増加、教師のいじめ認知への意識の向上により認知数が増えたと考えられる。</li> </ul> <p>【深谷市いじめ防止基本方針の改定】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年1月に深谷市いじめ防止基本方針を改定し、市内全ての小・中学校に配付した。</li> <li>・各学校においても、学校いじめ防止基本方針を改定し、公開している。</li> <li>・各学校でアンケート調査を行うことにより、いじめを未然に防止し、早期に発見することができた。</li> </ul> <p>【安心ふっかネット】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・深谷市では、ネットトラブルやネットいじめ等を防ぐため、子供たちが中心となり、学校、家庭、地域が一体となって、インターネット使用のルール「安心ふっかネット」に取り組んだ。</li> <li>・各学校ではPTA総会や学級懇談会等で説明したり、リーフレットを各家庭に配付したりして、周知・啓発に努めた。</li> </ul>			
		実績値	指標別コメント	
	いじめ認知件数(全小・中学校(29校))	158件	いじめ認知への意識の向上により、いじめの早期発見、早期対応に努めることができた。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	深谷市いじめ問題対策連絡協議会により、学校と関係機関が連携していじめ問題に対応できた。国の「いじめ防止のための基本方針」の改定に伴う、深谷市いじめ防止基本方針の改定において、各関係者からの意見の吸い上げの機会として、機能した。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

# 重点施策評価表

重点施策名	総合的な不登校対策の推進	担当課	学校教育課	
概要	各中学校区の連携を推進するとともに、学校総合支援員、スクールカウンセラーなどを配置し、不登校の未然防止、早期対応を図る。また、適応指導教室(いきいき教室・いきいきナイトスクール)を充実させ、不登校児童生徒の教室復帰を目指す。			
平成30年度 の実績	<p>【学校総合支援員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全中学校(10校)に配置し、不登校などに係る家庭訪問や、学校運営上の様々な問題に対応した。</li> </ul> <p>【スクールライフサポーター】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小・中学校13校に配置し、不登校など児童生徒の個々に応じた学校生活全般に関する支援を行った。</li> </ul> <p>【小学校教科支援エキスパート】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全小学校(19校)に配置し、専門的な指導を充実させるとともに、小・中のなめらかな接続に対応し、中1ギャップを軽減した。</li> </ul> <p>【アシスタントティーチャー】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全小学校(19校)に配置し、教科における少人数指導や低学年(1・2年生)の生活指導の支援を行い、個に応じた指導や基礎学力の定着、学習習慣の育成を図った。</li> </ul> <p>【不登校対策小中連携シート】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校における児童の出席状況等を、中学校が適切に把握するための不登校の未然防止シートを活用し、不登校の未然防止を図った。</li> </ul> <p>【アセス(学校適応感尺度)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級全体の適応感や児童生徒個人の適応感を測るためのソフトであるアセスを、年2回程度全小・中学校(29校)で実施し、不登校の未然防止を図った。</li> </ul> <p>【適応指導教室】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校などの理由により、在籍する学校を長期間にわたり欠席している児童生徒に対して、基礎学力を補充し、社会性を身につけさせ、登校しようとする意欲を喚起した。平成30年度は、昼間部で18人が通級し、部分復帰も含め16名が学校復帰した。夜間部は7名が通級し、4名が復帰した。</li> </ul> <p>【教育相談員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校等の児童生徒に係る心の問題を解消するため、全中学校(10校)に配置した。相談室は、不登校傾向の児童生徒の居場所になることもあり、保護者の相談窓口としても機能した。</li> </ul> <p>【スクールカウンセラー】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校等の児童生徒が抱える問題の解決や軽減のために、心の専門家として教職員へのコンサルテーションや、児童生徒、保護者へのカウンセリング等の活動を行った。</li> </ul> <p>【スクールソーシャルワーカー】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育分野に関する知識に加え、社会福祉等の専門的な知識や技術を用いて、不登校など児童生徒が置かれた様々な環境への働きかけや、関係機関等とのネットワークを活用し、問題を抱える児童生徒に支援を行った。</li> </ul>			
		指標名	実績値	指標別コメント
		不登校児童生徒数	54人	不登校児童生徒数は、県や国の出現率と比較すると落ち着いてはいるが、今後も支援が必要である。
		小学校不登校児童の割合	0.05%	不登校児童の割合は、平成29年度とほぼ同じである。
	中学校不登校生徒の割合	1.48%	平成29年度の割合(1.56%)と比較すると、減少傾向にある。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	深谷市の総合的な不登校対策の取組により、不登校児童生徒数は10年間で減少傾向にある。今後も、不登校ゼロを目指して、取り組んでいきたい。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

# 重点施策評価表

重点施策名	校種間のなめらかな接続		担当課	学校教育課
概要	<p>全中学校区で小中一貫教育を推進し、中1ギャップの解消を図るとともに、中高連絡協議会を実施し、出身校に係る高校生の中途退学の情報交換するなど中高の連携を図る。</p>			
平成30年度の実績	<p>【小・中・高における「なめらかな接続」の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全中学校区において、9年間の学びと育ちの連続性を重視した小中一貫教育の実施をした。(カリキュラムの研究、児童生徒の交流、教員間の交流、小中連携シートの活用等)</li> <li>・「中高連絡協議会」を開催した。(4回)</li> </ul> <p>深谷市内・寄居町内高等学校との協議会を2回、熊谷市内高等学校との協議会を2回開催した。(対象:各中学校長、各高等学校長を基本とする。)</p> <p>進路指導・キャリア教育の視点に立った協議を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校教科支援エキスパート(全小学校)、小学校理科支援員(全小学校)を配置した。</li> </ul> <p>小学校における授業の一部で専科指導を実施することにより、小学校(学級担任制)から中学校(教科担任制)への「なめらかな接続」を図った。</p> <p>【幼保小中における「なめらかな接続」の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼保小中連携推進協議会を開催した。(2回)</li> </ul> <p>中学校区10ブロックに分かれて分科会を行い、幼保小中連携について協議した。(対象:各幼稚園・保育園の園長又は主任、各小・中学校の管理職等)</p>			
		実績値	指標別コメント	
	中学校不登校生徒の割合	1.48%	平成29年度の割合(1.56%)と比較すると、減少している。	
	中高連絡協議会の開催回数	4回	なめらかな接続を推進するため、深谷市内・寄居町内高等学校と熊谷市内高等学校との協議会をそれぞれ2回ずつ開催した。(1回目…6・7月、2回目…10月)	
幼保小中連携協議会の開催回数	2回	なめらかな接続を推進するため、1回目は全体会、2回目は小学校区で実施した。		
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	<p>中高連絡協議会として、深谷市内・寄居町内高等学校との協議会を2回、熊谷市内高等学校との協議会を2回開催し、進路指導・キャリア教育の視点に立った協議を行うことができた。</p> <p>また、幼保小中連携推進協議会を2回開催し、中学校区10ブロックに分かれて分科会を行い、幼保小中連携について協議することができた。</p>		
<p>評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)</p>				

施策名	生徒指導の充実		点検評価表 作成課	学校教育課				
施策の方向性	○生徒指導・教育相談体制を充実させ、あらゆる教育活動を通じて積極的な生徒指導を推進する。 ○関係機関や学校・家庭・地域が一体となって、非行・問題行動の防止に向けた取組を行う。							
施策に関連する 主な取組	○生徒指導・教育相談体制の充実							
	○非行・問題行動の防止							
指標名	児童生徒の暴力行為の発生件数							
成果指標	指標の説明	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	令和2年度 実績値	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値
	小・中学校における生徒間暴力、対教師暴力、器物損壊、対人暴力の年間発生件数	11件	4件	0件				
		現状値 (平成28年度)	11件		➡	目標値 (令和4年度)	5件	

平成30年度 重点施策	○生徒指導に係る学校訪問の充実 ○スクールライフサポーターの配置						
平成30年度 実績	○生徒指導・教育相談体制の充実 ・深谷市生徒指導推進協議会を年5回開催し、学校と警察との連携及び小学校と中学校の連携を図った。 ・生徒指導に係る学校訪問を実施し、校内生徒指導体制の充実に向けた指導・助言を行った。 ・ICT支援員が週1日、ネットパトロールを実施した。 ・県と連携し、「小1問題対応非常勤講師」を小学校6校に配置した。  ○非行・問題行動の防止 ・埼玉県警察に要請し、警察OBをスクールサポーター(非常勤・週2日・6時間)として市内中学校に配置し、問題行動の未然防止を図った。 ・市費スクールライフサポーター(SLS)を小・中学校(11校)に配置し、積極的な児童生徒指導や問題行動の未然防止を図った。 ・全小・中学校(29校)で非行防止教室を実施した。						
総合評価	<b>A</b>	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない					
課題	非行問題行動は減少傾向にあるが、個々に問題を抱えている児童生徒や複雑な家庭は多いので、特別支援教育の視点での対応と学校だけでなく関係諸機関との連携が一層必要である。						
評価コメント	・生徒指導体制を充実させ、あらゆる教育活動を通じて積極的な生徒指導を推進し、関係機関や学校・家庭・地域が一体となって、非行・問題行動の防止に向けた取組を行うことができた。 ・成果指標である児童生徒の暴力行為の発生件数は、平成29年度に比べて4件減少し、目標値を大幅に下回っている。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。						

意見・提言	・スマートフォンの普及などにより、ネットやSNSでいじめが危惧されるので、児童生徒の利用状況に気を配ってほしい。 ・成果指標である児童生徒の暴力行為の発生件数が、平成20年度は68件あり、平成30年度は0件となっている。この10年間の並大抵ではない努力をされた成果が出ていて、非常に素晴らしいため、今後も継続してほしい。						
-------	---	--	--	--	--	--	--



## 重点施策評価表

重点施策名	生徒指導に係る学校訪問の充実		担当課	学校教育課
概要	指導主事、生徒指導担当専門員が全小・中学校を訪問し、生徒指導・教育相談体制の充実・強化を図る。			
平成30年度の実績	<p>・平成30年度は、前期(6月から7月)に、小学校3校、中学校10校、計13校を訪問した。後期(10月から12月)は、小学校16校、中学校4校、計20校を訪問した。</p> <p>・北部教育事務所指導主事や北部教育事務所いじめ・非行防止支援員等4名が児童生徒指導の現状や家庭・地域、関係諸機関との連携等について、各学校を訪問し、協議や授業参観等を行った。</p>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	小・中学校における生徒間暴力、器物損壊、対人暴力、対教師暴力の年間発生件数	0件	平成20年度には68件あった暴力行為(対教師暴力・生徒間暴力・対人暴力・器物破損)の総数が、年々減少している。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	小・中学校における暴力行為の発生件数は、減少傾向にある。非行問題行動も減少しており、生徒指導に係る学校訪問の成果が表れている。今後も引き続き実施し、生徒指導の充実に努めたい。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策名	スクールライフサポーターの配置		担当課	学校教育課
概要	スクールライフサポーターを配置し、積極的な生徒指導を推進するとともに、非行・問題行動の未然防止を図る。			
平成30年度の実績	<p>○スクールライフサポーターの配置</p> <p>・問題行動の発生を未然に防止し、児童生徒指導の充実に資するため、スクールライフサポーターを小・中学校(11校)に配置した。</p> <p>・配置については、小学校2校(川本南、八基)、中学校9校(幡羅、深谷、藤沢、南、豊里、上柴、岡部、川本、花園)の計11校であった。</p>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	スクールライフサポーターの配置校	11校	いじめや不登校など生徒指導上の課題に対応するため、スクールライフサポーターを小・中学校11校に配置し、問題行動の未然防止を図ることができた。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	スクールライフサポーターを配置することにより、個に応じた指導支援を行うことができ、生徒は集中して授業に取り組むことができた。また、校内パトロールを実施することで、早期に情報をキャッチして問題行動の未然防止を図ることができ、スクールライフサポーターの配置効果がでている。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

施策名	人権を尊重した教育の推進		点検評価表 作成課	学校教育課				
施策の方向性	○人権教育を推進するための体制を充実するとともに、人権感覚の育成を図るための指導内容・指導方法を改善する。 ○要保護児童対策地域協議会などの関係機関と連携しながら、児童虐待の早期発見・早期対応に努める。 ○男女共同参画の視点に立った教育や新たな人権課題に対応した教育などを充実する。							
施策に関連する 主な取組	○人権教育推進体制の充実 ○人権教育の指導内容・指導方法の工夫・改善 ○児童虐待防止対策の推進 ○男女共同参画の視点に立った教育の充実							
指標名	人権感覚育成プログラムを活用した校内研修の実施率							
成果指標	指標の説明	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	令和2年度 実績値	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値
	全小・中学校を対象とする「人権教育の実践状況に関する調査」で、人権感覚育成プログラムを活用した校内研修を実施したと回答した小・中学校の割合	72.4%	79.3%	82.8%				
		現状値 (平成28年度)	72.4%		→	目標値 (令和4年度)	100%	

平成30年度 重点施策	○「人権感覚育成プログラム」の活用 ○教職員研修の充実と関係機関との連携 ○学校における男女共同参画の視点に立った教育の推進						
平成30年度 実績	○人権教育推進体制の充実 ・深谷市新任・転入教職員研修会を夏季休業中に実施した。 ・ブロック別人権教育研修会(市内10ブロック)と人権教育主任研修会を実施した。 ○人権教育の指導内容・指導方法の工夫・改善 ・深谷市新任・転入教職員研修会や「性同一性障害をはじめとした性的マイノリティ」対応に関する研修、また、人権感覚育成プログラムを活用した校内研修を実施した。 ○児童虐待防止対策の推進 ・児童虐待対応研修会や子どもの虐待防止講演会に参加した。 ・児童虐待防止に関する指導を実施した。 ○男女共同参画の視点に立った教育の充実 ・男女混合の名簿等の取組をとおした男女共同参画への環境整備を行った。 ・男女ともに参画できる学校行事を実施した。						
総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない					
課題	・児童虐待防止教育の推進を図るため、県や市の関係部局とのより一層の連携を図る必要がある。 ・引き続き、研修会等を計画的、継続的に実施することで、教職員の資質向上を図る必要がある。						
評価コメント	・人権意識の高揚を図る研修会等を計画的に実施することにより、教職員が自らの人権意識を見つめ直し、確かな人権感覚を身に付け、人権教育に関わる指導を行うことができた。 ・全小・中学校(29校)が、児童虐待対応研修会に参加し、研修内容を教職員間で共有するなどし、意識啓発、指導力の向上を図ることができた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。						

意見・提言	・男女共同参画の取組はまだ年数が浅く、ロッカー・下駄箱も男女混合にするなど、具体的な取組で意識を高めていく必要がある。それと同時に、男女と意識されないような社会を目指してほしい。 ・性同一性障害の児童生徒が在籍している場合は、適切に配慮をしていく必要がある。						
-------	--	--	--	--	--	--	--

## 重点施策評価表

重点施策名	「人権感覚育成プログラム」の活用		担当課	学校教育課
概要	参加体験型の学習を取り入れた「人権感覚育成プログラム」を活用した実践的研修などを推進し、教職員の資質向上に努める。			
平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権感覚育成プログラムを活用した授業を、全小・中学校(29校)で実施した。</li> <li>人権感覚育成プログラムを活用した校内研修を、小学校17校、中学校7校で実施した。</li> </ul>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	人権感覚育成プログラムを活用した授業の実践	100% (29校/29校)	児童生徒に人権感覚育成プログラムを活用した授業を全小・中学校(29校)で実施することができた。	
	人権感覚育成プログラムを活用した校内研修の実施	82.8% (24校/29校)	教職員に人権感覚育成プログラムを活用した校内研修を小学校16校、中学校7校で実施することができた。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	教職員を対象として人権感覚育成プログラムを活用した校内研修を計画的に実施し、人権感覚の育成を図ることにより、児童生徒に人権感覚育成プログラムを活用した授業の充実を図っていくことが必要である。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策名	教職員研修の充実と関係機関との連携		担当課	学校教育課
概要	教職員の研修を充実させるとともに、児童虐待に関する定期的な状況報告を実施し、要保護対策地域協議会など関係機関との連携を強化する。			
平成30年度の実績	<p>【生徒指導推進協議会】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間5回の協議会を実施した。</li> <li>内容: 深谷警察生活安全課課長講演、夏季休業中の生徒指導、小・中・高・特支の連携・協力</li> </ul> <p>【寄居警察署管内学校警察連絡協議会】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間5回の協議会を実施した。</li> <li>内容: 寄居警察署生活安全課係長講演、夏季休業中の情報交換、各校の現状と地域の情報交換</li> </ul>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	連携会議参加回数	10回	警察等との連携のための協議会に10回参加し、情報共有や共通実践を行い、連携を強化することができた。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	学校と警察とが連携し、情報を共有することで、非行問題の未然防止や早期対応等に努めた。また、市内の小・中・高の学校が情報共有することで、指導の共通実践をし、足並みをそろえた指導に繋がっている。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

## 重点施策評価表

重点施策名	学校における男女共同参画の視点に立った教育の推進		担当課	学校教育課
概要	深谷市男女共同参画推進条例に基づき、学校における男女共同参画の視点に立った教育を推進する。			
平成30年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男女混合による名簿等を作成した</li> <li>・各学校で、運動会や宿泊学習等の役割を男女ともに割り当てた。</li> </ul>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	男女混合名簿等の作成校数	29校	全小・中学校(29校)で男女混合名簿等の作成ができた。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	下駄箱やロッカーなども男女混合にすることで、「男だから」「女だから」といった偏見を取り除き、個別の人権課題を解決する取組を行った。男女混合名簿や行事等での取組にみられるように、男女共同参画の視点に立った教育を推進することができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				



施策名	健康の保持増進	点検評価表 作成課	学校教育課
施策の方向性	○児童生徒の健やかな心と体の育成のため、学校・家庭と地域の医療機関などの関係機関が連携して、組織的に学校保健活動の充実を図る。 ○朝食の欠食を解消することを重点に、学校・家庭・地域が連携して食育を推進する。 ○性に関する指導、薬物乱用防止教育などの今日的な課題に対応する教育を推進する。		
施策に関連する 主な取組	○学校保健の充実 ○学校給食の充実 ○食育の推進 ○性に関する指導や薬物乱用防止教育の推進		

成果指標	指標名	毎日朝食を食べる児童生徒の割合							
	指標の説明	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	令和2年度 実績値	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値	
	全児童生徒を対象とする「体力等に関する調査」から、「朝食を毎日必ず食べる」と回答した児童生徒の割合	小学校	93.7%	92.1%	94.1%				
		中学校	91.1%	89.1%	86.3%				
	現状値 (平成28年度)	小学校 中学校	93.7% 91.1%	→		目標値 (令和4年度)	小学校 中学校	95.0% 93.0%	

平成30年度 重点施策	○地産地消の推進 ○献立の充実 ○食育の推進と朝食欠食の解消
----------------	--------------------------------------

平成30年度 実績	○学校保健の充実 ・児童生徒の発達段階に応じた学校保健計画や指導計画を作成した。 ・保護者参加の学校保健委員会を実施した。  ○学校給食の充実 ・地場産物を活用した献立を作成した。 ・岡部中学校及び花園中学校の自校式給食場を開設した。  ○食育の推進 ・体力向上推進委員会に栄養教諭も参加し、給食摂取率の向上に取り組んだ。  ○性に関する指導や薬物乱用防止教育の推進 ・児童生徒の発達段階を踏まえた、性に関する指導全体計画(エイズ教育を含む)の作成及び性に関する授業を実施した。 ・非行防止指導班「あおぞら」や熊谷保健所等外部指導者を活用しての薬物乱用防止教室を実施した。
--------------	---

総合評価	<b>A</b>	※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる    A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない        C: まったく進んでいない
------	----------	---

課題	朝食欠食率を減らす取組をより充実させ、家庭に協力してもらうための方策を考える必要がある。
----	--

評価コメント	・2棟の給食場を計画どおりに建設することができた。 ・児童生徒の発達段階に応じた学校保健計画や指導計画を全小・中学校(29校)で作成するとともに、学校保健委員会を全小・中学校(29校)で年1回以上実施することができた。 ・体力向上推進委員会で、朝食や睡眠などの生活習慣調査を実施し、児童生徒の生活習慣の現状等を把握することができた。 ・児童生徒の発達段階を踏まえた性に関する指導全体計画(エイズ教育を含む。)を作成し、性に関する授業を計画的に実施することができた。 ・全小・中学校(29校)で薬物乱用防止教室を実施することができた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。
--------	---

意見・提言	・岡部中学校と花園中学校で給食場が開設され、ほぼ全地域で自校式給食となり、素晴らしい。深谷の児童生徒は恵まれている。 ・栄養のある地場産野菜を使った温かい給食を提供できることは大事である。 ・朝食を摂ることは非常に重要で、日中の集中力に差が出てくるので、保護者に対し推奨してほしい。
-------	---

## 重点施策評価表

重点施策名	地産地消の推進		担当課	教育総務課
概要	地元野菜を生かした給食を提供し、地産地消の推進を図る。			
平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふかや園芸協会から野菜の無償提供を受け、地場産物を活かした給食を実施した。</li> <li>・各小・中学校において積極的に地場産物の購入に努めるとともに、地場産物を活かした献立を作成した。</li> </ul>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	県調査の地場産物調査における県内産食材の活用率(%)	33.1%	調査の目標値が30%であり、達成している市町村は9市町であるため高い水準といえる。	
	県調査の地場産物調査における市内産食材の活用率(%)	15.4%	調査の目標値はないが、県内産食材の約半数を占めていることから高い水準といえる。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	埼玉県食育推進計画(第3次)において、学校給食における地場産物の使用割合の目標を30%以上(食材数ベース)としていることから、引き続き堅持していきたい。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策名	献立の充実		担当課	教育総務課
概要	関係機関と連携して献立を研究し、学校給食の充実を図る。			
平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東都大学と連携し、食育に係る研修を実施した。</li> <li>・学校栄養士で構成する献立研究会を実施し、献立の充実を図るとともに、県費栄養士が市費栄養士をサポートするグループ会議を新たに発足させ、学校給食の充実を図った。</li> <li>・本市の学校給食に係る諸課題を解決するため、学校給食運営研究会を新たに発足させた。</li> </ul>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	献立研究会の実施回数	9回	定期的に開催することができたため、献立の充実が図られた。	
	学校給食運営研究会の実施回数	7回	10月から発足したが、回数を重ねることができ、さまざまな課題を解決することができた。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	今後は東都大学と献立についても連携していきたい。また、グループ会議について充実させていきたい。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

## 重点施策評価表

重点施策名	食育の推進と朝食欠食の解消		担当課	学校教育課
概要	栄養教諭等を中心とした食育を推進し、朝食欠食の解消に努める。			
平成30年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力向上推進委員会に栄養教諭も委員として参加し、朝食摂取率の向上を目標に取り組んだ。</li> <li>・教育委員会だより「こころざし」で朝食の重要性を紹介した。</li> <li>・給食集会や保健集会において、栄養教諭を中心に朝食の重要性の講話を行った。</li> </ul>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	朝食を毎日食べている児童生徒の割合	小学校94.1% 中学校86.3%	朝食を毎日食べている児童生徒の割合は、小学校は2.0ポイント上昇し、中学校は2.8ポイント低下した。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	6月の食育月間では、各学校で食育の充実を図ることができた。また、栄養教諭等を中心に、食に関する指導の充実を図ることができた。		
評価区分の考え方（1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討）				





施策名		体力の向上と学校体育活動の推進			点検評価表 作成課	学校教育課			
施策の方向性		○新体カテストの実施・活用による体力と運動技能を高める授業の充実を図る。 ○学校が家庭や地域と連携して児童生徒の生活習慣の改善や運動習慣の確立を図る。 ○専門的な指導力を有する地域の外部人材などを積極的に活用するなど運動部活動の充実に取り組む。							
施策に関連する 主な取組		○学校体育の充実							
		○新体カテストの実施と活用							
		○運動部活動の充実							
指標名		新体カテストの総合評価で上位3ランク(A+B+C)の児童生徒の割合							
成果指標	指標の説明	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	令和2年度 実績値	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値	
	国が実施する「新体カ テスト」の5段階総合評 価のうち、上位3ランク の児童生徒の割合	小学校	84.2%	85.4%	85.4%				
		中学校	84.5%	86.0%	86.5%				
		現状値 (平成28年度)	小学校 84.2%	中学校 84.5%	→		目標値 (令和4年度)	小学校 85.0%	中学校 85.0%

平成30年度 重点施策	○自己の体力の伸びを実感する体育授業の充実 ○体力向上の取組の推進 ○部活動指導員の配置 ○外部指導者の活用 ○部活動の在り方の検討	
平成30年度 実績	○学校体育の充実 ・体力向上推進委員会を年2回実施した。 ・小学校水泳実技指導者講習会と小学校体育実技指導者講習会を実施した。 ・外部指導者を活用する柔道授業を中学校5校で実施した。  ○新体カテストの実施と活用 ・新体カテストを実施した。 ・走力向上「50m走にチャレンジ」を実施した。  ○運動部活動の充実 ・外部指導者を活用し、全中学校(10校)に40名派遣した。 ・部活動指導員2名を、川本中陸上部、豊里中バレーボール部に派遣した。	
総合評価	<b>A</b>	※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる    A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない        C: まったく進んでいない
課題	柔道授業の外部指導者の確保と走力を向上させるためのプログラムの作成・活用が課題である。	
評価コメント	・新体カテストの結果における上位3ランクの児童生徒の割合は、前年度比、中学校で0.5ポイント上昇し、平成29年度に引き続き、目標値である85.0%を小・中学校ともに超えることができた。 ・全中学校(10校)で外部指導者を活用した部活動を実施した。外部指導者を活用することにより、安全かつ専門的な指導及び個に応じたきめ細かな指導を実施することができた。その結果、大きなけがをした生徒は1人もいなかった。 ・部活動指導員を2名派遣することができた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	

意見・提言	・走力が高まるように、外遊びを推進してほしい。 ・部活動指導員制度は、正しい指導により、怪我の防止にもつながり、教員の負担軽減にもなる素晴らしい取組である。
-------	---

## 重点施策評価表

重点施策名	自己の体力の伸びを実感する体育授業の充実	担当課	学校教育課
概要	児童生徒が個々の課題を把握し、一人一人が目標設定をしっかりと行い、「自己記録更新」を達成できるよう個に応じた取組を充実させる。		
平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・深谷市授業スタンダードに基づいた授業を実践した。</li> <li>・アスリートクラブ事業において外部指導者を活用した。</li> <li>・中学校武道(柔道)の授業において外部指導者を活用した。</li> </ul>		
	指標名	実績値	指標別コメント
	体育の授業が楽しい児童の割合 (全国体力・運動能力、運動習慣等調査)	小5男子:96.2% 小5女子:94.3%	小学校5年生男子は県の値よりも2.5ポイント高く、小学校5年生女子は県の値よりも4.5ポイント高かった。
	体育の授業が楽しい生徒の割合 (全国体力・運動能力、運動習慣等調査)	中2男子:91.3% 中2女子:84.8%	中学校2年生男子は県の値よりも5.3ポイント高く、中学校2年生女子は県の値よりも2.9ポイント高かった。
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	児童生徒が、個々の課題を把握し、自己の体力の伸びを実感する授業を実現するために「深谷市授業スタンダード」に基づく授業を実践している。全国体力・運動能力、運動習慣等調査の質問紙調査では小学校94.7%、中学校100%の教員が授業の目標を児童生徒に示し、ねらいを明確化した授業を行っている。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点施策名	体力向上の取組の推進	担当課	学校教育課
概要	アスリートクラブ事業における外部指導者を活用した小学校体育授業を実施するとともに、「実践事例集・指導案集」等を活用するなど、体育授業の充実を図り、児童生徒の体力向上に努める。		
平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力向上に係る重点種目である50m走において、自己の記録を高めることを目標に、全小・中学校(29校)で「50m走にチャレンジ」を実施した。</li> <li>・小学校で市教育委員会主催の体育実技指導者講習会を3回開催した。</li> <li>・中学校で市教育委員会主催の中学校武道(柔道)指導者研修会を開催した。</li> </ul>		
	指標名	実績値	指標別コメント
	新体力テストにおける50m走の記録が県平均を上回った割合	50.0%	平成29年度と比較すると大幅に上回った。
	体育実技指導者講習会の実施回数	4回	小・中学校ともに体育実技指導者講習会を開催し、教職員の指導力を向上させることができた。
新体力テストにおける上位2ランクの児童生徒の割合	小学校57.8% 中学校60.4%	平成29年度と比較して小学校では1.0ポイント、中学校では2.4ポイント向上した。	
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	小学校、中学校ともに実技指導者講習会を開催し、教職員の指導力を向上させるとともに、体育の授業を充実させることができた。新体力テストにおいては、男子は「ボール投げ」、女子は「50m走」に課題はあるが、中学校における上位2ランクの生徒の割合は60.4%となり、目標値52%を大きく上回ることができた。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

## 重点施策評価表

重点施策名	部活動指導員の派遣		担当課	学校教育課
概要	中学校における部活動指導体制の充実を推進するため、専門的指導力を備えた指導者を活用し、部活動指導員として配置する。			
平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校に部活動指導員を合計で2名(元教員)派遣した。</li> <li>・川本中学校陸上部へ1名を、豊里中学校バレーボール部へ1名を配置した。</li> </ul>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	部活動指導員の配置校数	2校	平成30年度から2校に部活動指導員を配置することができた。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	中学校(2校)に部活動指導員を配置することができた。また、部活動指導者を活用することで、指導者の資質の向上、教員の業務の負担軽減も図ることができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策名	外部指導者の活用		担当課	学校教育課
概要	中学校における部活動指導体制の充実を推進するため、地域の専門的指導力を備えた指導者を活用し、外部指導員として配置する。			
平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全中学校に外部指導者を合計で40人配置した。</li> <li>・配置内訳は、ラグビー部3人、柔道部3人、ソフトテニス部6人、卓球部3人、剣道部6人、サッカー部5人、バスケットボール部3人、バレーボール部2部、野球部2人、バドミントン部3人、ソフトボール部4人であった。</li> </ul>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	外部指導者の配置した中学校の割合	100% (10校/10校)	外部指導者を全中学校に配置できた。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	全中学校(10校)に外部指導者を配置することができた。また、外部指導者を活用することで、指導者の資質の向上を図るとともに、地域の指導者を活用することで、運動部活動と地域社会との連携を促進することができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

## 重点施策評価表

重点施策名	部活動の在り方の検討		担当課	学校教育課
概要	「部活動の在り方に関する推進委員会」を開催し、中学校の部活動の組織及び運営について研究・協議を進める。			
平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動の在り方に関する推進委員会を開催した。</li> <li>・部活動に係る諸調査を実施した。</li> <li>・平成30年度から深谷市立中学校に部活動指導員を配置できるよう要綱等を作成し、制度設計を行った。</li> <li>・「深谷市立中学校における部活動ガイドライン」を策定した。</li> </ul>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	部活動の在り方に関する推進委員会及び検討委員会の開催	3回	部活動の在り方に関する推進委員会を2回、検討委員会を1回開催できた。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	4	スポーツ庁が策定した「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」と、埼玉県教育委員会が策定する部活動の在り方に関する方針にのっとり、本市における部活動ガイドラインを策定することができた。また、市ガイドラインにのっとり全中学校(10校)で、各校における部活動ガイドラインを策定し、ガイドラインにのっとり部活動が行われるようになった。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

施策名		信頼される教職員の育成			点検評価表 作成課	学校教育課		
施策の方向性		○教員の経験年数や専門性に応じた適切な研修を充実する。 ○人事評価制度を充実し、教職員の人事管理や資質・能力の向上に取り組む。 ○教員が児童生徒と向き合う環境づくりを進める。 ○教職員の健康管理に配慮し、悩みを抱える教職員に対する取組を推進する。						
施策に関連する 主な取組		○教育研究所の機能の充実			○児童生徒と向き合う環境づくりの推進			
		○教員研修の充実			○悩みを抱える教職員に対する取組の推進			
		○経験豊かな人材の活用			○指導力が不足している教員への対応			
		○人事評価制度の活用						
指標名		新たな教育課題などの研修会の満足度						
成果 指標	指標の説明	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	令和2年度 実績値	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値
	プログラミング教育や道徳の教科化 など、新たな教育課題に係る実践 的な研修に参加し、普段の指導に 生かせると感じた教員の割合	未実施	100%	100%				
		現状値 (平成28年度)	未実施		→	目標値 (令和4年度)	90.0%	

平成30年度 重点施策	○学校、保護者支援拠点としての研究所 ○教員の授業力向上 ○人事評価制度を活用した教育力の向上 ○ICT活用による業務改善	
平成30年度 実績	○教育研究所の機能の充実 ・教育研究所の機能の充実を図るため、次のとおり職員を配置した。 指導主事 2名 専門員 10名 学校福祉相談員 3名 発達支援アドバイザー 2名  ○教員研修の充実 ・研究所協力員研修会、各教科等担当指導主事による研修会等を実施した。 ・若手教職員対象の研修会を2回、市内園長・校長会議において、管理職対象の研修会を2回実施した。 ・働き方改革にともない、県の研修とのバランスをみて、平成30年度は、中堅・ベテランの教職員を対象とした 研修会を実施しなかった。  ○経験豊かな人材の活用 ・経験豊かな人材を活用し、児童生徒の問題行動や保護者・地域との対応等、学校が抱える様々な課題の解 決に向けた支援の充実のため、学校総合支援員10名を配置した。  ○人事評価制度の活用 ・人事評価制度の充実を図るため、評価者研修会を実施した。  ○児童生徒と向き合う環境づくりの推進 ・昨年に引き続き校務支援システム(指導要録の電子化等)を活用した。  ○悩みを抱える教職員に対する取組の推進 ・担当委嘱医による教職員メンタルヘルス相談を年12回実施した。  ○指導力が不足している教員への対応 ・指導主事が定期的に学校を訪問し、指導力が不足している教員を繰り返し指導した。	
総合評価	<b>A</b>	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
課題	・働き方改革に伴い、研修の効率化を図るとともに、若手教師の増加に対応した研修の充実を図る必要があ る。	
評価コメント	・管理職を対象とした研修会を年間2回実施するとともに、若手教職員研修を2回実施できた。中堅教職員研 修については県の研修とのバランスをとり、実施しなかった。 ・教職員の指導力の向上については、研究所協力員による、「深谷市授業スタンダード」「ベーシック」を踏ま えた指導案等の実践事例を作成した。また各教科等の担当指導主事による研 修会等を実施できた。 ・校務支援システムを活用することにより、児童生徒と向き合う時間を確保することができた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	
意見・提言	・メンタル面等で悩んでいる若手教員については、教育研究所のメンタルヘルスを活用してほしい。個人の人 生設計を考えると、最近は雇用の流動化が進んできていることもあり、新たなチャレンジをさせることも支援策 の1つだと思う。	

# 重点施策評価表

重点施策名	学校、保護者支援拠点としての研究所		担当課	学校教育課
概要	教員の資質・能力の育成支援拠点となるよう整備を進め、発達障害など課題に対応するため、新たに発達支援アドバイザーを配置し、学校、教員、保護者等への支援に取り組む。			
平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別な支援を要する児童生徒に対して、自己肯定感や意欲を高めるような温かい指導・支援の在り方を学校訪問を通して先生方と一緒に考え、指導・助言を行った。</li> <li>・保護者や児童・生徒に寄り添い、望ましい信頼関係を築くような関わり方について指導・助言を行った。</li> <li>・保健センター等の関係部署と適切な就学や支援に繋がるような情報交換を定期的に行った。</li> </ul>			
		実績値	指標別コメント	
	学校訪問実施回数	小学校 54件 中学校 25件	要請があった学校には、すべて訪問し指導・助言を行った。	
	関係部署との連携	こども青少年課 3件 保健センター 29件	外国籍児、医療連携児、就学支援対象児等の支援等について関係部署との連携を行った。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	学校訪問では、学級での指導の様子を参観し、その後、望ましい支援の在り方等について、管理職、担任等と協議し指導助言を行った。関係部署との連携については、児童生徒の就学支援について、情報共有を行い、なめらかな接続につなげることができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

# 重点施策評価表

重点施策名	教員の授業力向上		担当課	学校教育課						
概要	<p>教員のライフステージに応じた資質・能力が身に付けられるよう研修内容の整理と系統化を進め、授業力向上を目指した実践的な研修を実施するなど教育研究所が教員研修の拠点となるよう充実に努める。</p>									
平成30年度の実績	<p>・「こころざし深谷教師塾」によって、はつらつ先生、長期研修教員、教育研究所指導委員の授業を広く市内教員に公開し、優れた指導技術を学ぶ機会を設けた。(実施校20校(学校訪問に合わせて実施)参加教員数93名)</p> <p>・深谷市授業スタンダードの徹底を図るため、深谷市スタンダード・プロモート・スタッフ(S・P・S)による国語、算数、外国語活動の授業を公開し、参観教員の意識啓発と指導力向上のための機会を設けた。</p> <p>・「深谷市授業スタンダード」「授業ベーシック」を踏まえた授業実践を各校で取り組んだ。また、深谷市教育研究所協力員の取組として「単元デザインシート」を作成し、小・中学校に配付した。</p> <p>【教育委員会が主催し、実施した研修会】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初任者研修として、教科研修、施設研修を実施した。</li> <li>・2年次研修として、セカンドステップ研修を実施した。</li> <li>・働き方改革にともない、県の研修(中堅教諭等資質向上研修)とのバランスをみて、平成30年度は、中堅・ベテランの教職員を対象とした、研修会を実施しなかった。</li> <li>・管理職を対象とした研修に関しても、働き方改革にともない、研修の回数を1回に減らした。</li> <li>・臨時教職員、非常勤講師等に関わる研修を実施した。(アシスタントティーチャー、教科支援エキスパート、図書館補助員、スクールライフサポーター、学校相談員、学校総合支援員、理科支援員等)</li> <li>・教科等指導法の研修を実施した。(算数・数学、理科、英語、体育、道徳)</li> <li>・新任教職員及び転入教職員を対象とした人権教育に係る研修を実施した。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="336 1032 1497 1144"> <thead> <tr> <th></th> <th>実績値</th> <th>指標別コメント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>「こころざし深谷教師塾」に参加した人数</td> <td>93人</td> <td>平成29年度は85人が参加しており、増加している。</td> </tr> </tbody> </table>					実績値	指標別コメント	「こころざし深谷教師塾」に参加した人数	93人	平成29年度は85人が参加しており、増加している。
	実績値	指標別コメント								
「こころざし深谷教師塾」に参加した人数	93人	平成29年度は85人が参加しており、増加している。								
担当課評価	<p>評価区分</p> <p>1</p>	<p>評価コメント</p> <p>新しくS・P・Sによる授業公開や「こころざし深谷教師塾」に参加した人数が増加している。優れた授業実践を見る機会として、継続していく。また、引き続き、「深谷市授業スタンダード」「授業ベーシック」をもとに教員の授業力向上を図っていく。</p>								
<p>評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)</p>										



## 重点施策評価表

重点施策名	人事評価制度を活用した教育力の向上		担当課	学校教育課
概要	人事評価制度の意義や評価方法についての評価者研修を充実するとともに、人事評価制度を活用し、学校の教育力と、教職員の資質・能力の向上を図る。			
平成30年度の実績	【評価者研修】 対象:小・中学校の校長及び教頭(校長対象3回 教頭対象4回) 内容:教職員評価システム変更点、人事評価制度運用上の留意点について研修を行い、評価者の評価制度の活用の向上を図った。			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	管理職への研修会の回数	校長3回 教頭4回	人事評価制度の改正に伴い、講義形式と事例を取り上げての演習形式で、研修を実施した。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	2	校長と教頭を対象にした評価者としての研修会を校長3回、教頭4回実施することができた。平成28年度から、評価結果が給与等へ反映されており、評価者としての評価能力の向上を目指した研修を重ねてきた。人事評価制度も軌道にのり、他の管理職研修等でも人事評価制度の研修が実施されていることから、最低限の回数と質を確保する研修として見直しを図る。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策名	ICT活用による業務改善		担当課	学校教育課
概要	ICTの活用等による業務の効率化を進め学校現場の負担を軽減し、児童生徒と向き合う時間を確保する。また、児童生徒を取り巻く課題に対応するため、教育と福祉関係機関との連携を強化し、学校をサポートする。			
平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>校務支援システムをはじめとするICT機器の活用により、校務の効率化やICTの指導への利用を進めていくことができた。(校務支援システムによって軽減された時間:65.4時間(平成26年調査))</li> <li>平成29年度に引き続き、全小・中学校(29校)において校務支援システムを使った成績処理と指導要録、出席簿抄本、調査書、通知表等の作成を行い、教師が児童生徒と向き合う時間を確保した。</li> <li>校務支援システムの使用法についての研修会を行った。</li> <li>校務にICT機器を活用する能力については、89.3%の教師が活用することができる。</li> </ul>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	校務にICT機器を活用することができる教員の割合	89.3%	平成29年度の埼玉県の平均81.6%を7.7ポイント以上超える結果であった。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	平成26年度においてすべての整備を終え、システム導入前と比較して時間軽減や満足度を調査することができなくなった。そのため、校務にICT機器を活用することができる教師の割合は、県の平均を約8ポイント上回る結果となった。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

施策名		学校の組織運営の改善と地域の核となる学校づくり			点検評価表 作成課	学校教育課		
施策の方向性		○学校運営組織の活性化に向けて、管理職が十分リーダーシップを発揮できるよう、支援する。 ○学校が核となり、学校・家庭・地域が協働して学校運営に取り組む組織体制を築き、充実させる。 ○学校評価を子供たちの教育に生かせるよう、評価結果の反映を充実させる。						
施策に関連する 主な取組		○組織運営体制の整備・充実						
		○学校運営協議会の充実						
		○地域学校協働活動に関する連携協力体制の整備						
指標名		学校運営協議会の平均開催回数						
成果指標	指標の説明	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	令和2年度 実績値	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値
	各小・中学校の学校運営協議 会の1校あたりの平均開催回数	2.5回	3.6回	3.7回				
		現状値 (平成28年度)	2.5回		➡	目標値 (令和4年度)	3.0回	

平成30年度 重点施策	○地域と共にある学校づくりの推進	
平成30年度 実績	○組織運営体制の整備・充実 ・校長会代表、教頭会代表、学校教育課長等で構成する学校運営に係る連絡会議を設置し、台風等の緊急案件の発生等に、対応等について協議を行った。 ・市内園長・校長会議において、管理職対象の研修会を2回実施した。  ○学校運営協議会の充実 ・深谷市コミュニティ・スクール推進委員会及び推進実行委員会を実施した。 ・深谷市コミュニティ・スクール会長連絡協議会(7月、2月)を実施した。 ・深谷市コミュニティ・スクール担当者会議を実施した。 ・会長連絡協議会を通して、学校運営協議会での取組内容等を情報共有した。 ・県の研修会等に、各校から学校運営協議会委員が参加した。  ○地域学校協働活動に関する連携協力体制の整備 ・明戸地区に地域学校協働活動推進員を1名委嘱し、明戸小学校、明戸中学校の学校運営協議会委員に任命した。	
総合評価	<b>A</b>	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる    A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない        C:まったく進んでいない
課題	・学校運営協議会の内容の充実を図るとともに、地域、家庭、教員等に広く学校運営協議会を広報し、コミュニティ・スクールを周知する必要がある。	
評価コメント	・学校運営協議会の実施回数については、各校とも学期に最低1回は実施している。さらに、各校で工夫し、小中連携での取組や、行事に併せて行うなど、実施回数は増加してきている。 ・学校運営協議会の内容に関しては、地域と連携した取組として、各校独自の取組が増えてきている。 ・学校間に格差があり、地域、家庭、職員への学校運営協議会の意義等の周知が不十分である。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	

意見・提言	・学校運営協議会は、各校における通常の会議に加え、会長連絡協議会、担当者会議、推進委員会などを実施し、充実した活動を行っている。
-------	--

# 重点施策評価表

重点施策名	地域と共にある学校づくりの推進		担当課	学校教育課
概要	健全な子供の育成、活力ある学校、地域の活性化に向け、学校・家庭・地域が協働して学校運営の改善、充実が図れるよう、学校運営協議会を支援する。			
平成30年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全小・中学校(29校)に学校運営協議会を設置し、委員を任命した。</li> <li>・深谷市コミュニティ・スクール推進実行委員会及び同推進委員会を年2回開催した。</li> <li>・学校運営協議会の充実を図るため、深谷市コミュニティ・スクール担当者会議、学校運営協議会会長連絡協議会を開催した。</li> </ul>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	各小・中学校の学校運営協議会の1校あたりの平均開催回数	3.7回	各校、学期に1回をベースに行った。協議の内容や各校の特色により、実施回数には差が見られた。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	3	平成30年度当初から全小・中学校(29校)で学校運営協議会を開催することができた。明戸地区では地域学校協働活動推進員を1名委嘱し、明戸小学校、明戸中学校の学校運営協議会委員に任命することができた。今後は学校運営協議会の充実を図り、学校・家庭・地域が協働する形を作っていくために、さらに関係者の研修会や協議会をしていく。また、県主催のフォーラム等にも学校運営協議会委員の参加を推進していくとともに、全体研修会を実施する。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

基本目標Ⅲ 地域に信頼される学校教育の推進

Ⅲ-3

施策名	子供たちの安全・安心の確保		点検評価表 作成課	学校教育課				
施策の方向性	○学校における危機管理体制の整備・充実と教職員の危機管理能力の向上に努める。 ○東日本大震災の教訓を踏まえ、子供たちに危機管理能力の基礎を身に付けさせるため、学校における実践的な避難訓練などを地域と連携して計画的に実施する。 ○児童生徒の防犯や交通安全について、地域や関係機関と連携し、地域ぐるみの学校安全体制の整備を推進する。							
施策に関連する 主な取組	○安全教育の推進							
	○学校の危機管理体制の整備・充実							
	○家庭・地域と連携した防犯、交通安全教育の推進							
指標名	地域や関係機関と連携した避難訓練の実施率(中学校)							
成果指標	指標の説明	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	令和2年度 実績値	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値
	市内中学校における地域と関係 機関と連携した避難訓練の実施 率	20.0%	60.0%	60.0%				
		現状値 (平成28年度)	20.0%		➡	目標値 (令和4年度)	100%	

平成30年度 重点施策	○ふっかちゃんヘルメットの活用 ○避難訓練の実施 ○学校安全体制の充実	
平成30年度 実績	○安全教育の推進 ・全小・中学校(29校)で交通安全教室を実施した。  ○学校の危機管理体制の整備・充実 ・全小・中学校(29校)が緊急地震速報の音源等を活用した避難訓練を実施した。  ○家庭・地域と連携した防犯、交通安全教育の推進 ・各小・中学校長、PTA会長、スクールガードリーダー、深谷警察署、寄居警察署、道路管理課、学校教育課からなる深谷市通学路安全対策連絡会を年2回実施し、通学路の危険箇所について共通理解を図り、地域ぐるみで取り組む安全推進体制を強化した。 ・災害に強い情報基盤である「緊急連絡サイト」を、全小・中学校(29校)で活用した。 ・学校が主体となって、保護者や地域の協力を得ながら、安全点検を実施した。 ・深谷市登下校見守り連絡会を設置した。	
総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる    A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない        C:まったく進んでいない
課題	・通学路安全点検の結果を受けて、危険箇所等に係る児童生徒への指導と、地域や保護者への情報提供を適宜行っていく必要がある。	
評価コメント	・成果指標である地域や関係機関と連携した避難訓練の実施率は、平成28年度から大幅に向上している。 ・埼玉県教育委員会の方針でもある「緊急地震速報を活用した避難訓練」を全小・中学校(29校)で1回以上実施できた。 ・災害に強い情報基盤である「緊急連絡サイト」を、全小・中学校(29校)で活用することができた。 ・深谷市通学路安全対策連絡会を年2回実施し、通学路の危険箇所について共通理解を図り、地域ぐるみで取り組む安全推進体制を強化した。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	

意見・提言	・車に対して気を付けたり、暗い場所や人通りが少ない場所は通らないように気を付けて登下校する必要がある。見守りとして地域の人が協力して行っている明戸小学校の朝散歩、大寄小学校のお迎え散歩は素晴らしい取組である。 ・交通ルールを守れていない子供をよく見かけるので、安全のためにルールを徹底する必要がある。
-------	---

## 重点施策評価表

重点施策名	ふっかちゃんヘルメットの活用		担当課	学校教育課
概要	小学校に在籍する全ての児童を対象に通学用ヘルメットを配布し、自分の命は自分で守る意識を育てる。			
平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助対象者は、深谷市立小学校に在学している、又は在学を予定している児童の保護者とする。</li> <li>・平成30年度補助額 1人あたり3,000円</li> <li>補助金総額 @3,000円×1,225人=3,675,000円</li> </ul>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	ヘルメットサポート補助人数	1,225人	平成31年度新1年生及び平成30年度途中転入者分の補助をすることができた。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	平成29年度から全小学生児童が、登下校の際ヘルメットを着用し、事故防止や安全面での効果も再認識できたものと推測される。なお、ヘルメット着用により、重大な事故を防げた事案も確認された。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策名	避難訓練の実施		担当課	学校教育課
概要	対応マニュアルの保護者・地域への周知を図り、共に避難訓練や引き渡し訓練を実施することで、対応マニュアルの実効性を高める。			
平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急地震速報等を活用した避難訓練を全小・中学校(29校)が実施した。</li> <li>・小学校においては、引き渡し訓練を含めた避難訓練を全小学校(19校)が実施した。</li> <li>・震度4以上の地震に対する学校初動対応マニュアルの見直しを行い、修正を加えた。併せて、各学校にも対応マニュアルの見直しや確認を指示した。</li> </ul>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	緊急地震速報の音源等を活用した避難訓練の実施状況(各校年1回以上)	100%	全小・中学校(29校)において緊急地震速報の音源等を活用した避難訓練を1回以上実施することができた。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	地震が起きた場合に、児童生徒が安全かつ迅速に避難できるよう、全小・中学校(29校)において緊急地震速報の報知音等を活用した避難訓練を1回以上実施することができた。また、教職員においても、地震が起きたときの役割や児童生徒の誘導について理解することができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

# 重点施策評価表

<b>重点施策名</b>	学校安全体制の充実		<b>担当課</b>	学校教育課
<b>概要</b>	こども110番の家、スクールガードリーダーなど、学校・家庭・地域が一体となった、地域ぐるみの学校安全体制の充実に努める。			
<b>平成29年度の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各小・中学校長、PTA会長、スクールガードリーダー、深谷警察署、寄居警察署、道路管理課、学校教育課からなる深谷市通学路安全対策連絡会を年2回実施し、通学路の危険箇所について共通理解を図り、地域ぐるみで取り組む安全推進体制を強化した。</li> <li>・深谷市登下校見守り連絡会を設置した。</li> <li>・学校が主体となって、保護者や地域の協力を得ながら、安全点検を実施した。</li> <li>・各小学校1名、スクールガードリーダーを委嘱し、通学路の見守り活動の中心となって活動した。</li> <li>・学校応援団、PTA等、多くの目で児童生徒の通学路の安全体制の充実に努めた。</li> </ul>			
		<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>
	深谷市通学路安全対策連絡会の実施回数	2回	各中学校区毎に共通理解を図ることができた。	
<b>担当課評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>		
	1	各小・中学校長、PTA会長、スクールガードリーダー、深谷警察署、寄居警察署、道路管理課、学校教育課で構成される、深谷市通学路安全対策連絡会を年2回実施し、通学路の危険箇所について共通理解を図り、地域ぐるみで取り組む安全推進体制を強化することができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				



施策名		学習環境の整備・充実			点検評価表 作成課	教育施設課			
施策の方向性		○長寿命化計画に基づいた施設整備により、安全で快適な学習環境づくりを進める。 ○教材・備品の整備、学校図書館の資料の充実、学校の情報化を推進する。							
施策に関連する 主な取組		○学校施設の整備							
		○教材・備品の整備							
		○学校図書館の充実							
		○ICT環境の充実							
指標名		学校施設の専門的点検を実施した学校の割合(毎年半数を対象学校とする)							
成果指標	指標の説明	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	令和2年度 実績値	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値	
	建築基準法第12条第1項の規定に準じ、毎年半数の学校を対象に、学校施設の専門的 点検(劣化の状況等の点検)を実施した割合	幼稚園	未実施	100%	100%				
		小学校	未実施	100%	100%				
		中学校	未実施	100%	100%				
		現状値 (平成28年度)	幼稚園 小学校 中学校	未実施 未実施 未実施	➔			目標値 (令和4年度)	幼稚園 小学校 中学校

平成30年度 重点施策	○幼・小・中学校施設整備事業		
平成30年度 実績	<p>○学校施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上柴西小学校校舎東側のトイレ改修工事を実施した。</li> <li>・花園中学校管理教室棟の大規模改修工事について、平成29年度のⅠ期工事に引き続きⅡ期工事として、建物の内部(床・壁・天井)及び設備等の改修を実施した。</li> <li>・南中学校体育館の大規模改修工事を実施した。※一部(外部改修)繰り越し有り</li> <li>・幼稚園、小学校、中学校の建物(南部)定期調査・建築設備定期検査業務委託を実施した。</li> </ul> <p>○教材・備品の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国庫補助金を活用して、理科、算数及び数学の設備を整備した。</li> <li>・小学校6校、中学校3校、幼稚園1園で、老朽化した職員室等のエアコンを更新した。</li> <li>・小学校2校、中学校2校で、老朽化した放送設備を更新した。</li> </ul> <p>○学校図書館の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館の蔵書の充実を図るため、全小・中学校(29校)で図書の新規購入、更新を行った。</li> <li>・全小・中学校(29校)に市費の学校司書を配置した。</li> </ul> <p>○ICT環境の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校10校、中学校5校プリントを追加で設置した。</li> <li>・小学校6校、中学校3校でパソコン室用コンピューター等の入替を行った。</li> </ul>		
総合評価	<b>A</b>	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる    A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない        C:まったく進んでいない	
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校施設長寿命化計画の早期策定と、その計画に沿った大規模改修等の施設整備が求められている。</li> <li>・学校施設、設備、備品の老朽化への対応が求められている。</li> <li>・学校図書館の学習センター、情報センターとしての機能充実のため、計画的に資料を更新する必要がある。</li> </ul>		
評価コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画どおりトイレ改修工事、大規模改修工事、専門的点検を実施できた。</li> <li>・計画的な図書の購入により、全小・中学校(29校)で学校図書館の標準図書冊数を上回ることができた。</li> <li>・国庫補助金を活用したことにより、理科、算数及び数学の設備の整備を進めることができた。</li> <li>・老朽化した多くの学校備品を更新することができた。</li> <li>・授業でタブレットPCを活用できる環境の整備を進めることができた。</li> <li>・以上のことから、総合評価は「A」とする。</li> </ul>		

意見・提言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の遊具で遊ぶ子供が増えた方が体のためにも良いので、安全に配慮しつつ、遊具の数も維持してほしい。</li> <li>・施設の改修時には、埼玉県産の木材の利用も検討してほしい。</li> </ul>
-------	---



## 重点施策評価表

重点施策名	幼・小・中学校施設整備事業		担当課	教育施設課
概要	上柴西小学校の校舎東側トイレ改修工事、花園中学校管理教室棟(Ⅱ期)・南中学校体育館の大規模改修工事及び学校施設の専門的点検を実施する。			
平成30年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上柴西小学校校舎東側のトイレ改修工事を実施した。</li> <li>・花園中学校管理教室棟の大規模改修工事について、平成29年度のⅠ期工事に引き続きⅡ期工事として、建物の内部(床・壁・天井)及び設備等の改修を実施した。</li> <li>・南中学校体育館の大規模改修工事を実施した。 ※一部(外部改修)繰り越し有り</li> <li>・幼稚園、小学校、中学校の建物(南部)定期調査・建築設備定期検査業務委託を実施した。</li> </ul>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	トイレ改修工事が完成した建物棟数 (年度計画0.5棟)	0.5棟	上柴西小学校校舎1棟のうち、東側半分のトイレ改修が完成したことから0.5棟の実績とし、年度計画どおりの進捗となっている。	
	大規模改修工事実施棟数 (年度計画1.5棟)	1.5棟	花園中学校の管理教室棟1棟をⅠ期、Ⅱ期の2か年で計画しており、Ⅱ期工事が完成したことから0.5棟の実績とし、併せて南中学校体育館の大規模改修工事を実施したことから、年度計画どおりの進捗となっている。	
学校施設の専門的点検実施校数 (年度計画18/37校)	18校	年度計画どおり、「毎年半数を対象学校」として18校の専門的点検を実施した。		
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	平成30年度に予定していたトイレ改修工事(0.5棟)、大規模改修工事(1.5棟)、専門的点検18校は、計画どおりに実施できた。引き続き、トイレ改修や大規模改修、専門的点検の実施に向けた事務手続を進めていく。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

施策名		家庭の教育力向上に向けた支援			点検評価表 作成課		生涯学習スポーツ振興課		
施策の方向性		○家庭教育の大切さや子供たちが基本的な生活習慣を身に付けるための啓発活動を推進する。 ○親が親として育ち、家庭での教育力を付けるための学習を推進する。							
施策に関連する 主な取組		○家庭教育学級の充実							
		○親の学習講座の推進							
		○地域世代間交流事業の推進							
		○家庭教育だより「まごころ」の発行							
成果指標	指標名	親の学習講座の参加者数							
	指標の説明	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	令和2年度 実績値	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値	
	親の学習講座の参加者数	1,797人	1,738人	1,789人					
		現状値 (平成28年度)		1,797人	➡		目標値 (令和4年度)		1,900人

平成30年度 重点施策	○家庭教育学級事業 ○家庭教育事業		
平成30年度 実績	<p>○家庭教育学級の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全公民館(12館)において、家庭教育学級を実施した。</li> <li>・家庭教育学級の実施にあたり、社会教育指導員と内容を検討し、家庭教育アドバイザーも活用した。</li> </ul> <p>○親の学習講座の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全小学校(19校)で、就学時検診において保護者を対象に親の学習講座を実施した。</li> <li>・中学生の保護者を対象とした親の学習講座を公民館と連携するなどして実施した。</li> </ul> <p>○地域世代間交流事業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区体育祭、公民館まつり等を各公民館において実施できた。</li> </ul> <p>○家庭教育だより「まごころ」の発行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年3回発行した。(計19,500部、自治会回覧方式)</li> </ul>		
総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない	
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親の学習講座については、新中学1年生の保護者を対象とした講座の実施方法について、検討の必要がある。</li> <li>・「まごころ」については、自治会回覧方式に変更したことにより、今まで目にしていなかった家庭にも届くことを考慮し、必要によっては内容を検討していく。</li> </ul>		
評価コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭教育学級は、各公民館において特色のある講座を実施できた。</li> <li>・親の学習講座については、全小・中学校(29校)の保護者を対象に実施することができた。</li> <li>・「まごころ」の配布形態を自治会回覧方式に変更したことにより、より多くの家庭に届けることができています。</li> <li>・以上のことから、総合評価は「A」とする。</li> </ul>		

意見・提言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親の学習講座の参加者を増やすために、保護者に対し、内容の理解と周知を図っていく必要がある。</li> <li>・家庭教育学級の実施などをとおして、地域の方々とコミュニケーションをとることは大事なので、継続してほしい。</li> </ul>
-------	---

## 重点施策評価表

重点施策名	家庭教育学級事業		担当課	生涯学習 スポーツ振興課
概要	公民館において家庭教育学級を実施し、家庭における教育力の向上や親同士の交流の促進を図る。			
平成30年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全公民館(12館)において、親の学習講座を中心として、「人権学習」、「親子料理教室」や「音楽鑑賞会」など家庭教育学級を実施した。</li> <li>・家庭教育学級の実施にあたり、社会教育指導員と内容を検討し、家庭教育アドバイザーも活用した。</li> </ul>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	家庭教育学級の実施回数	35回	平成29年度(34回)より1回多く開催した。	
	家庭教育学級の参加者数	2,449人	参加者数は平成29年度(2,439人)とほぼ同じである。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	全公民館(12館)で、親の学習講座を中心とした各地区で特色のある家庭教育学級を実施した。親の学習講座については、各公民館が社会教育指導員と相談しながら計画的に事業を行うことができている。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策名	家庭教育事業		担当課	生涯学習 スポーツ振興課
概要	親の学習講座を実施するための体制を整備する。			
平成30年度 の実績	<b>【親の学習講座の推進】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全小学校(19校)において、就学時に新1年生の保護者を対象として親の学習講座を実施した。</li> <li>・新中学1年生(小学6年生)の保護者を対象とした親の学習講座を全中学校(10校)の保護者を対象に実施した。</li> </ul>			
	<b>【家庭教育だより「まごころ」の発行】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年3回発行した。(19,500部)</li> <li>・平成27年度より自治会回覧方式に変更した。</li> </ul>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	親の学習講座の実施回数	29回	親の学習講座を小学校及び中学校の保護者を対象に実施した。	
親の学習講座の参加者数	1,789人	親の学習講座の参加者数は平成29年度(1,738人)より増加している。		
「まごころ」年間発行部数	19,500部	自治会回覧方式のため、発行部数は平成29年度と同じである。		
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	新中学1年生の保護者を対象とした講座の実施方法は、検討の余地があるが、親の学習講座については、全小・中学校(29校)の保護者を対象に実施ができ、参加者数については横這いである。「まごころ」は全3回発行することができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

<b>施策名</b> 家庭・地域・学校が協力する教育体制の整備		<b>点検評価表</b> 作成課		生涯学習スポーツ振興課				
<b>施策の方向性</b>		○子供たちの居場所づくりや学習支援などを行う環境を整備するにあたり、地域住民の積極的な参加を促進する。 ○ボランティア意識の高揚を図り、社会参加活動や青少年健全育成の取組を促進する。						
<b>施策に関連する主な取組</b>		○放課後子ども教室の推進		○青少年健全育成活動の推進				
		○学校応援団などの推進						
		○学校教育・社会教育の連携						
		○ボランティア活動の促進						
<b>指標名</b>		地域の行事や活動に参加している子供の割合						
<b>成果指標</b>	<b>指標の説明</b>	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	令和2年度 実績値	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値
	全国学力学習状況調査において、市内の全ての小学6年生及び中学3年生のうち、地域の行事や活動に参加している児童生徒の割合	70.7%	66.0%	66.3%				
		現状値 (平成28年度)	70.7%		→	目標値 (令和4年度)	73.0%	

<b>平成30年度重点施策</b>	○放課後子ども教室推進事業	
<b>平成30年度実績</b>	○放課後子ども教室の推進 ・がんばル～ムを全小学校(19校)で実施した。  ○学校応援団などの推進 ・安心して学校応援活動を行うことができるよう、学校支援者補償制度に加入した。 【学校応援活動の主な取組内容】 授業の補助、登下校の安全管理、部活動の指導、図書の整理や読み聞かせ、校内の環境整備、学校行事の運営支援等 ・各小・中学校における活動費用の補助を行った。  ○学校教育・社会教育の連携 ・小・中学校において親の学習講座を実施した。  ○ボランティア活動の促進 ・各公民館でボランティアによる花植えを実施した。  ○青少年健全育成活動の推進 ・家庭教育学級 親の学習講座を実施した。	
<b>総合評価</b>	<b>A</b>	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
<b>課題</b>	・「がんばル～ム」については参加者数が減少しているため、参加者が少ない小学校の人数を増加させたい。	
<b>評価コメント</b>	・成果指標である地域の行事や活動に参加している子供の割合は、前年度に比べて僅かではあるが上昇した。 ・がんばル～ムは、引き続き全ての小学校で実施することができた。ちいきの先生はそれぞれ工夫を凝らし参加児童の満足度の高い取組を実施している。 ・登下校の安全管理では、自治会を中心とした地域防犯団体が登下校時に見守り活動を実施し、市内では大きな事件・事故は発生していない。 ・親の学習講座は市内全地区で開催することができ、参加者の満足度は高い。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	
<b>意見・提言</b>	・がんばル～ムの参加者数が年々減少しているが、対策を検討する際は、施設の状況やちいきの先生の年齢構成など様々な要因について当たってみてほしい。	

## 重点施策評価表

重点施策名	放課後子ども教室推進事業		担当課	生涯学習 スポーツ推進課
概要	放課後子ども教室「がんばル〜ム」を全小学校で実施し、子供たちの居場所づくりと学習の支援の充実を図る。			
平成30年度 の実績	・全小学校(19校)で、「がんばル〜ム」を実施した。 (学校の行事の無い土曜日に実施。長期休暇中は除く。)			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	がんばル〜ム実施回数 (全小学校(29校))	491回	各学校の事業等で実施回数にバラつきがあるが、実施可能日については、全日程実施できた。	
がんばル〜ム参加者数 (全小学校(29校))	857人	平成29年度(935人)よりも参加児童数は減少した。		
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	参加児童数は平成29年度よりも減少しているが、引き続き、小学生のより良い土曜の居場所作りを継続していくものとする。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

施策名	市民のニーズに応える生涯学習の支援		点検評価表 作成課	生涯学習スポーツ振興課				
施策の方向性	○学習情報の提供、指導者の育成や確保など、生涯学習を推進するための体制を整備する。 ○多様化する学習ニーズに対応できるよう、講座・教室などの充実を図る。							
施策に関連する 主な取組	○生涯学習推進体制の整備・充実			○市民大学の推進				
	○指導者の育成・確保			○子ども体験学習の推進				
	○学習情報の収集と提供							
	○講座・教室の充実							
指標名	生涯学習を実践している市民の割合							
成果 指標	指標の説明	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	令和2年度 実績値	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値
	深谷市民まちづくりアンケートにおいて、「自発的な学習や自己啓発活動など生涯学習を実践している」と答えた市民の割合	34.9%	37.6%	33.2%				
		現状値 (平成28年度)	34.9%		➡	目標値 (令和4年度)	38.0%	

平成30年度 重点施策	○市民大学運営事業 ○子ども大学推進事業						
平成30年度 実績	○生涯学習推進体制の整備・充実 ・社会教育委員会議では委員の活発な発言により充実した会議を開催できた。  ○指導者の育成・確保 ・親の学習等の講師として、家庭教育アドバイザーを活用した。  ○学習情報の収集と提供 ・各公民館発行の公民館だよりを通して、学習情報の提供を行った。  ○講座・教室の充実 ・パソコン講習会を深谷・上柴公民館において開催した。また、各公民館において各種講座を実施した。  ○市民大学の推進 ・ふかや市民大学を開催し、全20回講座を実施した。各班活動も実施し、成果発表を行った。 ・ふかや市民大学運営委員会では、次年度に向けて市民大学講座の見直しを行った。 ・校友会とともに、協働事業(「ふかや市民大学生き生きフェスタ」「深堀講座」)を実施した。  ○子ども体験学習の推進 ・子ども大学ふかやを開催し、全5回のプログラムを実施した。						
総合評価	<b>A</b>	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる    A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない        C:まったく進んでいない					
課題	生涯学習を実践している市民の割合が下がっており、市民のニーズに合った講座の実施が必要である。						
評価コメント	・各公民館において各種講座を実施し、地域ごとに学習機会の支援をすることができた。 ・ふかや市民大学校友会と協働事業を実施することができた。 ・子ども大学ふかやの応募者数は定員を大幅に上回り、抽選により参加者を決定した。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。						

意見・提言	・子ども大学推進事業は、地域にある大学の施設を活用して、家庭ではできない学習を展開している非常に良い取組なので、今後も工夫しながら継続してほしい。 ・パソコン講習会は、複数のコースが用意され、専門家の指導のもと参加者の技術の向上が図られ、とても良い取組である。						
-------	---	--	--	--	--	--	--

## 重点施策評価表

重点施策名	市民大学運営事業		担当課	生涯学習 スポーツ振興課
概要	市民の学習意欲に応えるため市民大学を開催し、生涯学習の機会を提供する。			
平成30年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民大学を開催し、全20回講座を実施した。各班活動も実施し、成果発表することができた。</li> <li>市民大学運営委員会による市民大学講座の見直しを行い、次年度にむけた講座の計画を立てることができた。</li> </ul>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	市民大学応募者数	84人	募集人員(80名)を上回る応募があった。	
	市民大学講座回数	20回	予定していたすべての講座を実施することができた。	
	市民大学運営委員会の開催回数	3回	運営委員会において、カリキュラムの見直しを図った。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	市民大学については、募集定員を上回る応募があり、年間をとおして全20回の講座を実施できた。市民大学運営委員会では、次年度に向けてカリキュラムの見直しを図った。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策名	子ども大学推進事業		担当課	生涯学習 スポーツ振興課
概要	地元の大学等と連携し、学校や家庭では体験できない学習事業を実施する。			
平成30年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>なぜを追究する【はてな学】、ふるさとのことを深く知る【ふるさと学】、より良く生きる【生き方学】の3分野にわたって、大学の先生やその道のプロフェッショナルが分かりやすい授業を行った。(全5回)</li> </ul>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	子ども大学応募者数	66人	募集人員(50名)を大幅に上回る応募があった。【抽選】	
	子ども大学講義回数	5回	予定していたすべての講義を実施することができた。	
	子ども大学運営委員会の開催回数	3回	実行委員会において、講義の見直しなどを行った。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	子ども大学ふかやについては、募集定員を大幅に上回る応募があった。7月から11月にかけて全5回のプログラムをすべて実施することができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

基本目標 V 生涯学習の推進

V-2

施策名		生涯学習施設の整備・充実						点検評価表 作成課	生涯学習スポーツ振興課
施策の方向性		○生涯学習施設の整備・充実を図る。 ○生涯学習施設の適正な維持管理に努める。							
施策に関連する 主な取組		○公民館の整備・充実							
		○図書館施設の充実							
		○スポーツ・レクリエーション施設の整備・充実							
指標名		公民館の稼働率							
成果 指標	指標の説明	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	令和2年度 実績値	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値	
	市内12公民館全室の1時間ご との平均稼働率	26.5%	27.4%	27.3%					
		現状値 (平成28年度)	26.5%		→	目標値 (令和4年度)	28.0%		

平成30年度 重点施策	○公民館施設整備維持事業							
平成30年度 実績	<p>○公民館の整備・充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の安全、利便性を確保するため各公民館において各種修繕を行った。</li> <li>・藤沢公民館体育室照明器具交換工事を実施した。</li> <li>・岡部公民館建設工事は予定通り進捗した。</li> <li>・川本公民館については、建設予定地の防災調査報告会を実施した。</li> </ul> <p>○図書館施設の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・花園図書館の空調設備の修繕を行った。</li> <li>・新岡部図書館の開館に向けた準備作業を行った。</li> </ul> <p>○スポーツ・レクリエーション施設の整備・充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合体育館の自動火災報知設備更新工事設計業務および更新工事、研修会議室空調設備更新工事。</li> <li>・中瀬グラウンドブロック塀修繕工事。</li> <li>・川本天神テニスコート修繕、照明修繕 等。</li> </ul>							
総合評価	<b>A</b>		※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる    A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない        C: まったく進んでいない					
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老朽化した公民館施設について維持管理コストの増加が懸念される。</li> <li>・岡部公民館の建設工事において、関係部署と細部の協議が必要である。</li> <li>・川本公民館については、関係部局と協議を行い、設計業務等事務を進める必要がある。</li> </ul>							
評価コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各公民館においては、各種修繕を適正に行うことができた。</li> <li>・藤沢公民館体育室照明器具交換工事を実施することができた。</li> <li>・岡部公民館建設工事は、令和元年度秋のオープンに向けて順調に工事が進捗した。</li> <li>・成果指標である市内12公民館の稼働率は、前年度とほぼ横ばいであった。</li> <li>・以上のことから、総合評価は「A」とする。</li> </ul>							

意見・提言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新築している岡部公民館の外観は非常に素晴らしく、完成後の活発な利用を期待する。</li> <li>・深谷市全体を考えてそれぞれの地域を比較すると、老朽化している施設や新しい施設で差が生じている。</li> </ul>							
-------	--	--	--	--	--	--	--	--



## 重点施策評価表

重点施策名	公民館施設整備維持事業		担当課	生涯学習 スポーツ振興課
概要	岡部公民館・川本公民館整備推進及び既存公民館の施設の維持・修繕を実施する。			
平成30年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岡部公民館建設については、順調に工事が進捗し、2019年秋のオープンを目指している。</li> <li>・川本公民館については、平成29年に実施した防災調査について、元川本公民館建設委員会、2つの要望団体、自治会川本支会、川本公民館建設協議会の5団体の報告会を実施した。</li> <li>・藤沢公民館体育室照明器具交換工事を実施した。</li> </ul>			
		指標名	実績値	指標別コメント
		川本公民館防災調査報告会	5件	平成29年に実施した防災調査について、元川本公民館建設委員会他4団体に対して報告会を実施した。
		公民館修繕件数	82件	修繕等について適正に執行できた。
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	岡部公民館については順調に工事進んでおり、工期内の完成を目指している。川本公民館については、防災調査の報告会を開催し、建設地の決定に向けて進んでいる。公民館の修繕については適正な執行をしている。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

施策名	図書館サービスの充実		点検評価表 作成課	図書館			
施策の方向性	○ニーズの多様化・高度化に対応するため、幅広く資料を収集するとともに、各館の蔵書の特色を生かした図書館資料の整備を進める。 ○ICT環境の整備を進め、利用者の課題解決を支援する。 ○お話し会や各種講座・講演会などを開催し、市民文化の向上を図るとともに、子供や障害者をはじめ幅広い市民の読書活動の推進を図る。						
施策に関連する 主な取組	○図書館機能の充実						
	○地域の情報拠点としての資料の収集と提供の充実						
	○読書活動の推進						
	○図書館運営の充実						
指標名	市民1人当たりの図書の貸出冊数						
指標の説明	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	令和2年度 実績値	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値
図書館本館、3分館、L・フォル テでの貸出冊数の合計を人口 で割った平均値	3.82冊	3.84冊	3.94冊				
	現状値 (平成28年度)		3.82冊	→		目標値 (令和4年度)	4.00冊

平成30年度 重点施策	○子供の読書活動を推進する協議会の開催 ○図書館サービスの充実	
平成30年度 実績	○図書館機能の充実 ・一般書から児童書まで、利用者からの要望に沿った資料を購入し、全体的にバランスの取れた図書資料を精選の上購入した。 ○地域の情報拠点としての資料の収集と提供の充実 ・深谷市に関する資料や郷土資料を収集するとともに、レファレンスにも対応した。 ○読書活動の促進 ・幼稚園、小・中学校に読書活動に関するアンケート調査を行い、読書傾向の把握に努めた。 ・「ブックスタート」「赤ちゃんタイム」「おはなし会」「えいが会」などの乳幼児～小児対象の事業や、「夏休み子ども図書館員体験」事業や中学・高校生の社会体験活動としての図書館就業体験など図書館への興味を抱かせる事業を実施した。 ・「読み聞かせボランティア養成講座」「古典文学講座」などの大人向けの講座など、従来からの図書館利用者以外でも参加しやすい事業を展開した。 ・子供の読書活動を推進するため、赤ちゃんから高校生までを対象とした新たな必読書「ふかやふれあい必読書50」を選定した。 ○図書館運営の充実 ・利用者サービス向上の面から、休館日・開館時間の拡充の検討を行った。	
総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
課題	・子供の読書活動の推進のためにも学校図書館との連携を図っていく必要がある。 ・計画的な資料の更新や郷土資料の保存を進めていく必要がある。 ・年間貸出点数が増加するよう、利用者のニーズに沿った資料選定や読書推進イベントなどの活用を行う必要がある。	
評価コメント	・市イメージキャラクターふっかちゃんを主人公としたブックスタート用絵本の制作と読み聞かせへの活用は、全国で初めてであり乳幼児の読書推進と子育ての応援に寄与している。 ・児童の図書館見学の際には必ず図書の貸出を体験してもらい、その後の読書習慣の定着に向けた取組となっている。 ・図書館主催事業は総じて好評を得ている。特に乳幼児～小児を対象とした読み聞かせ・おはなし会などは、参加者の増加が認められ、子どもたちのみならず、保護者も含め利用者の拡大をすることができた。 ・読み聞かせボランティア養成講座などは、受講後に読み聞かせボランティアとして図書館事業の協力者となるなど読書活動の推進に貢献している。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	

意見・提言	・様々な主催事業を実施したり、色々な目標を立て、図書館サービスの充実のために努力しており、評価できる。 ・ブックスタートは、保護者に喜ばれている良い取組なので継続してほしい。
-------	--

## 重点施策評価表

重点施策名	子供の読書活動を推進する協議会の開催		担当課	図書館
概要	第2次深谷市子供読書活動推進計画に基づき、子供の読書活動を推進するための図書館と学校等との協議の場を設け、情報共有を図る。			
平成30年度の実績	深谷市子供読書活動推進協議会を開催し、平成30年度は今までの「ふかや必読書30」を改定した「ふかやふれあい必読書50」を選定し、図書館、保育園、幼・小・中学校へ図書を整備し子供読書活動の推進を図った。また、小・中学校の学校司書を対象にした研修会を実施した。			
		実績値	指標別コメント	
	深谷市子供読書活動推進協議会の開催	3回	「ふかやふれあい必読書50」の選定を行った。	
	学校司書研修会の実施	1回	小・中学校の学校司書を対象に、図書資料の修理についての研修会を実施した。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	平成30年度に新たに選定した「ふかやふれあい必読書50」は、前回の選定から10年ぶりであり、0～18歳までを対象にして30冊から50冊に増加している。今後とも学校や家庭との連携により子供読書活動を推進していくため、現状維持とする。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策名	図書館サービスの充実		担当課	図書館
概要	平成29年度に行った図書館利用者アンケートの結果を参考に、利用者満足度の向上を図る。			
平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視聴覚資料の貸出期間が図書資料と異なり短く、図書資料と一緒に返せないという利用者の声に対して、視聴覚資料の貸出期間の延長の検討を行った。</li> <li>・新聞や雑誌の種類を増やしてほしいという希望に対して、入替及び配置換の検討を行った。</li> </ul>			
		指標名	実績値	指標別コメント
	利用者アンケートによる視聴覚資料の貸出期間の不満の割合		9.9%	周辺市町村の状況も調査し、平成31年4月より延長を実施した。
	利用者アンケートによる新聞・雑誌の種類不満の割合		12.5%	利用頻度などから新聞・雑誌の入替とリクエストに応じた配置換を平成31年4月より実施した。
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	利用者アンケートの結果による利用者満足度の向上を図るため、貸出期間の見直しや新聞・雑誌の入替及び配置換を行うため、3月より広報等により周知をした。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

施策名	渋沢栄一翁をはじめ郷土の偉人を生かした取組の推進			点検評価表 作成課	渋沢栄一記念館			
施策の方向性	○渋沢栄一をはじめとした郷土の偉人の顕彰のために資料の収集や調査・研究を行い、その成果を市内外に発信する。 ○渋沢栄一ゆかりの史跡を整備し、その活用を推進する。							
施策に関連する 主な取組	○渋沢栄一をはじめ郷土の偉人に関する情報の収集と発信							
	○渋沢栄一ゆかりの史跡の整備と活用							
指標名	渋沢栄一ゆかりの施設の来場者数							
成果指標	指標の説明	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	令和2年度 実績値	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値
	渋沢栄一にゆかりのある「中の家」 「尾高惇忠生家」「誠之堂・清風亭」 「旧煉瓦製造施設」「渋沢栄一記念館」の1年間の来場者数	49,180人	48,539人	43,475人				
		現状値 (平成28年度)	49,180人		➡	目標値 (令和4年度)	70,000人	

平成30年度 重点施策	○渋沢栄一翁顕彰事業 ○論語の里施設管理活用事業		
平成30年度 実績	○渋沢栄一をはじめ郷土の偉人に関する情報の収集と発信 ・渋沢栄一記念館資料室の常設展示替えを行うとともに企画展を開催した。 ・見学者への展示資料の解説に対応するため、資料室に渋沢栄一記念館資料解説員を配置した。 ・渋沢家住宅、尾高惇忠生家から発見された資料の調査を実施した。 ・渋沢栄一記念館に収蔵している資料リストの見直しを行い、データベース化を進めた。 ・収蔵資料の保管容器を整えるとともに、傷みの激しい資料について修復を行った。 ・講演会の開催を通じ、渋沢栄一翁の事績に関する専門的な研究成果を公開した。 ・栄一塾や史跡めぐりを開催し、渋沢栄一翁と東京商工会議所との関係を学ぶとともに、創立140周年リニューアル「東京商工会議所」ツアーを開催し、渋沢栄一翁の功績を学ぶ機会を提供した。 ・「論語の里」散策のためのガイド機能を持つ「論語の里」アプリケーションの継続的な保守点検を行い、アプリケーションを利用したクイズラリーを通年で開催し、総インストール数を増加させることができた。 ・富岡製糸場と深谷の3偉人のレリーフを作成し、より身近に偉人を理解できる資料の作成ができた。 ・尾高惇忠生家PR用のDVD作成により、渋沢栄一ゆかりの施設の理解向上が図れた。  ○渋沢栄一ゆかりの史跡の整備と活用 ・「渋沢栄一翁と論語の里」ボランティアの会が「季節のおもてなし事業」や「講演会」「論語の里まち歩きツアー」を開催した。「論語の里まち歩きツアー」では、参加者のさらなる増加を目指し、見学者の希望に沿った期日で開催する「希望日コース」を設定し、指定日14回のほか6回の開催で参加者を増やすことができた。 ・八基小学校との協働事業として、6年生の児童を対象とした藍染教室を実施した。		
総合評価	A	※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる    A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない        C: まったく進んでいない	
課題	・企画展やイベントを通じた情報発信をさらに推し進める必要がある。 ・「論語の里」の見学環境を整えるためにも、旧渋沢邸「中の家」、尾高惇忠生家の速やかな改修整備が必要である。 ・ボランティア団体の活動については、引き続き支援を行う必要がある。		
評価コメント	・渋沢栄一記念館資料室に収蔵されている資料の修復、整理とデータベース化を進めることができた。 ・ボランティア団体主催のおもてなし事業の開催に加え、ボランティアと小学校の協働事業を実施することができた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。		

意見・提言	・成果指標である渋沢栄一ゆかりの施設の来場者数は、令和元年度に大幅に伸びると思うが、一過性に終わらないように維持してほしい。 ・他市から来ている方が観光しやすいように、わかりやすいマップ等の周知や配布を工夫してほしい。 ・幅広く地域の人材に呼び掛け、ボランティアの育成を進めてほしい。
-------	--

## 重点施策評価表

重点施策名	渋沢栄一翁顕彰事業		担当課	渋沢栄一記念館
概要	渋沢栄一など郷土の偉人に関する資料の収集・整理を推進し、講演・企画展などを開催するとともに、新たなビデオを作成するなど、多くの人に郷土の偉人をPRする。			
平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常設展示の一部見直しを行い、コーナー展示（「豊蚕を願って」「尾高家の養蚕」「藍玉と養蚕」）を開催した。</li> <li>・2回の企画展（「幕末のイケメン！ 渋沢平九郎展」「渋沢栄一と企業～東京商工会議所～」）を開催した。</li> <li>・資料室に渋沢栄一記念館資料解説員を配置し、見学者への対応を行った。</li> <li>・富岡製糸場と深谷の3偉人のレリーフを作成し、より身近に偉人を理解できる資料の作成ができた。</li> <li>・尾高惇忠生家PR用のDVD作成により、渋沢栄一ゆかりの施設の理解向上が図れた。</li> </ul>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	常設展見学者数	10,156人	コーナー展示を平成29年度より多く3回開催することができた。	
	企画展見学者数	5,880人	企画展を2回開催することができた。	
資料解説員配置日数	359日	年末年始、休館日以外の全日配置を実現した。		
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	2	常設展示の一部見直し、新たな企画展の立案・開催を継続し、引き続き見学者の受入れ体制の充実を図っていきたい。		
評価区分の考え方（1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討）				

# 重点施策評価表

重点施策名	論語の里施設管理活用事業	担当課	渋沢栄一記念館
概要	旧渋沢邸「中の家」の補強設計・改修に着手し、公開範囲を広げ、来場者の観覧環境の充実を図る。		
平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旧渋沢邸「中の家」敷地内の高木選定業務、及び同敷地北側竹垣および管理用通用門、竹土留め修繕工事を行い景観をより高めることができた。</li> <li>・「渋沢栄一翁と論語の里」ボランティアの会主催による「季節のおもてなし事業」「論語の里まち歩き」「藍染教室」「講演会」を開催することができた。</li> </ul>		
	指標名	実績値	指標別コメント
	渋沢栄一にゆかりのある「中の家」「尾高惇忠生家」「誠之堂・清風亭」「旧煉瓦製造施設」「渋沢栄一記念館」の1年間の来場者数	43,475人	平成28年度は、富岡製糸場の世界遺産決定の余波でメディアへの露出が多く、NHKの朝ドラの影響もあり、また平成29年度は行幸啓の影響で見学者が大きく増えたことから、平成30年度は大きく減となった。
	季節のおもてなし事業参加者数	2,935人	春、夏、秋に3回、年度末に1回開催することができた。
論語の里まち歩きツアー参加者数	84人	渋沢栄一記念館駐車場を起点として、14回実施することができた。参加者のさらなる増加を目指し、見学者の希望に沿った期日で開催する「希望日コース」を設定したため、6回の申し込みがあり参加者の増加が図れた。(49人増)	
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	3	「渋沢栄一翁と論語の里整備活用計画」に基づき、旧渋沢邸「中の家」、尾高惇忠生家の調査、設計、改修を実施していく必要がある。また「渋沢栄一翁と論語の里」ボランティアの会への活動支援を行い、「論語の里」を発信源とする市民活動の更なる充実を促していきたい。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			



施策名	深谷が誇る歴史・文化の保存・継承と活用		点検評価表 作成課	文化振興課				
施策の方向性	○文化財の調査・記録を実施するとともに、指定を通じ、保存のための措置を講じる。 ○各種イベントの開催を通じて、文化財を活用しながら、市内の伝統文化の魅力を伝えていく。							
施策に関連する 主な取組	○文化財の調査、保存、管理と活用			○文化財保護の浸透				
	○埋蔵文化財の保存、活用							
	○民俗芸能の保存と継承							
	○文化財施設の整備と活用							
指標名	無形民俗文化財の後継者育成を行う団体の割合							
成果指標	指標の説明	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	令和2年度 実績値	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値
	市内の無形民俗文化財の指定 団体のうち、後継者育成を行う 団体の割合	92.0%	92.0%	92.0%				
		現状値 (平成28年度)	92.0%		→	目標値 (令和4年度)	96.0%	

平成30年度 重点施策	○文化財活用事業 ○埋蔵文化財調査事業 ○日本煉瓦保存整備事業	
平成30年度 実績	○文化財の調査、保存、管理と活用 ・市内古文書調査(上野台、宿根及び中瀬地内)を行った。  ○埋蔵文化財の保存、活用 ・各種開発に伴い、埋蔵文化財確認調査(62件)・発掘調査(9件)を行った。  ○民俗芸能の保存と継承 ・無形民俗文化財後継者育成補助事業として文化財所有団体に経費の補助を行った。 ・無形民俗文化財(黒田ささら獅子舞)の記録保存を行った。  ○文化財施設の整備と活用 ・誠之堂・清風亭の公開を行った。 ・旧煉瓦製造施設の公開を行った。 ・旧煉瓦製造施設の保存修理工事が着工となった。  ○文化財保護の浸透 ・郷土の歴史や文化財に関する煉瓦講座や、発掘調査見学会等を開催した。 ・深谷市民文化会館にて「幡羅官衙遺跡群国史跡指定記念シンポジウム」を行った。	
総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
課題	・開発協議を経て発掘調査から報告書刊行までを円滑に行う環境を、今後も維持していく必要がある。 ・旧煉瓦製造施設の保存修理工事を継続しつつ、保存活用計画の方針を進める必要がある。 ・幡羅官衙遺跡の保存・活用の検討が大きな課題である。	
評価コメント	・開発に伴う確認調査・発掘調査等は、ほぼ円滑に対応できた。 ・文化財施設や旧煉瓦製造施設の公開、郷土の歴史や文化財を身近に感じられる企画展等を行うことができた。 ・成果指標である無形民俗文化財の後継者育成を行う団体の割合は、平成29年度と同じ92%を維持することができた。 ・旧煉瓦製造施設の保存修理工事に着工することができた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	

意見・提言	・ホフマン輪窯などの有名な文化財が沢山あるので、観光資源として活用してほしい。また、案内も工夫してわかりやすくしてほしい。 ・歴史的な景観の保存については、より長期的な都市計画などにより、住民が転居することなく、煉瓦の倉庫や蔵などの町並みの保存を図れる方策があると良いと思う。
-------	---



## 重点施策評価表

重点施策名	文化財活用事業	担当課	文化振興課
概要	指定文化財の所有者・管理者等が行う保存修理や管理事業等を補助し、文化財が適切に将来へ継承するよう図るとともに、出土文化財や史跡等の公開機会を設け活用を推進する。		
平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幡羅官衙遺跡群国史跡指定シンポジウムを行った。</li> <li>・旧日本煉瓦製造施設 ホフマン輪窯6号窯 木造覆屋跡発掘調査見学会を実施した。</li> <li>・市内指定文化財の所有者等に対して、管理費を交付した。</li> </ul>		
	指標名	実績値	指標別コメント
	文化財企画展示会の実施回数	8回	文化財を広く市民に周知するため、文化財企画展示会を実施した。
	現地説明会の実施回数	2回	文化財を広く市民に周知するため、現地説明会を実施した。
	管理費の交付件数	39件	市内文化財の適正な管理及び保存を目的として、文化財所有者等に対し、管理費を交付した。
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	市民が歴史や文化財を身近に感じられる事業を実施し、今後も効率的に歴史、文化の継承を図り、様々な企画を継続して実施していくことが必要である。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点施策名	埋蔵文化財調査事業	担当課	文化振興課
概要	埋蔵文化財包蔵地内で行われる各種開発に先立ち、確認調査、発掘調査等を実施し、埋蔵文化財の適切な保護、保存を行う。		
平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・埋蔵文化財包蔵地に該当した開発地において確認(試掘)調査を行った。</li> <li>・埋蔵文化財包蔵地に該当した開発地において発掘調査を行った。</li> <li>・前年の発掘調査の報告書を刊行した。</li> </ul>		
	指標名	実績値	指標別コメント
	確認(試掘)調査の実施件数	62件	埋蔵文化財の状況を適切に把握するために確認(試掘)調査を実施した。
	発掘調査の実施件数	9件	埋蔵文化財の状況を適切に把握するために発掘調査を実施した。
	発掘調査報告書の刊行数	4件	地域の歴史を構成する資料となる調査報告書を刊行した。
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	開発に伴う確認(試掘)、発掘調査等の業務を円滑に行うことができた。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

## 重点施策評価表

重点施策名	日本煉瓦保存整備事業		担当課	文化振興課
概要	国重要文化財「日本煉瓦製造株式会社旧煉瓦製造施設」の維持管理・活用に努めるとともに、保存活用計画に基づく保存修理工事を実施する。			
平成30年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保存修理工事を着工した。</li> <li>・旧日本煉瓦製造施設の保存修理工事に伴う国庫補助金の交付申請を行った。</li> </ul>			
	指標名		実績値	指標別コメント
	国庫補助金の交付申請件数		1件	国の予算スケジュールにより国庫補助金の交付申請を行った。
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	旧煉瓦製造施設の保存修理工事を継続しつつ、保存活用計画の具体化を図る必要がある。		
評価区分の考え方（1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討）				



施策名	市民が行う文化芸術活動の支援		点検評価表 作成課	文化振興課				
施策の方向性	○多様な文化・芸術に触れることができる機会を拡充する。 ○文化団体などの自主的な活動の支援・育成を行う。 ○市にゆかりのある美術品の收藏と展示公開を進める。 ○地域ゆかりの文化資源の活用を図る。							
施策に関連する 主な取組	○文化・芸術活動の推進			○地域ゆかりの文化資源の活用				
	○地域における文化活動の推進							
	○文化団体の育成							
	○美術品の收藏・展示公開							
指標名	芸術鑑賞や文化活動を行う市民の割合							
成果指標	指標の説明	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	令和2年度 実績値	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値
	深谷市民まちづくりアンケートにおいて、「この1年間に芸術文化や多様な文化活動に親しむ機会があった」と答えた市民の割合	29.6%	28.2%	29.5%				
		現状値 (平成28年度)	29.6%		➡	目標値 (令和4年度)	35.0%	

平成30年度 重点施策	○子ども芸術文化推進事業 ○文化団体の支援	
平成30年度 実績	○文化・芸術活動の推進 ・アーティスト倶楽部を開催し、子供達が様々な芸術や文化活動に触れる機会を提供した。 ・文化芸術による子供の育成事業を開催し、良質な文化・芸術に触れる機会を提供した。  ○地域における文化活動の推進 ・深谷市美術家協会と連携し、深谷市美術展を開催した。 ・NPO法人市民シアター・エフと協働し、優秀映画鑑賞推進事業を開催した。  ○文化団体の育成 ・深谷市文化団体連合会、埼玉県北美術家協会に補助金を交付し、文化・芸術活動の活性化を図った。  ○地域ゆかりの文化資源の活用 ・埼玉県指定有形文化財に指定されている清風亭で、文化遺産コンサートを開催した。	
総合評価	<b>A</b>	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
課題	より優れた文化・芸術事業の提供を行うため、多様で良質な文化・芸術事業の企画が必要である。	
評価コメント	・子どもたちに対して土器づくり体験や音楽体験などを行い、良質な文化・芸術に触れる機会を提供でき、参加者の満足度も高かった。 ・清風亭で文化遺産コンサートを深谷市民文化会館大ホールではアーティストによるコンサートを開催し、参加者の満足度の高いイベントを提供できた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	

意見・提言	・埼玉県指定有形文化財に指定されている清風亭でのコンサートは、素晴らしい雰囲気を持つ文化遺産を活用した良い取組であるため、継続してほしい。 ・市が成熟していくためには、市民が行う文化活動は重要な要素であり、支援していく取組は今後も必要である。
-------	--

## 重点施策評価表

重点施策名	子ども芸術文化推進事業	担当課	文化振興課
概要	子どもの文化・芸術活動の内容充実を図り、新たな文化体験活動を創造する。		
平成30年度の実績	・小・中学生を対象にした「アーティスト倶楽部」を開催し、文化・芸術に触れる機会を提供した。		
	【アーティスト倶楽部】		
	5月26日	「ガラスでアクセサリなどをつくろう！」 深谷公民館	38名
	6月23日	「イラストレーターと絵を描こう！」 深谷公民館	19名
	7月21日	「土器づくり体験！」 川本出土文化財管理センター	24名
	8月18日	「革細工で小物をつくろう！」 深谷公民館	19名
	11月4日	「雅楽を楽しもう！」 深谷公民館	21名
	2月3日	「写真を撮ろう！」 深谷公民館	22名
		実績値	指標別コメント
	アーティスト倶楽部の実施回数	6回	平成29年度と同様の回数を実施した。
	アーティスト倶楽部の延べ参加者数	143人	参加者数は平成29年度よりおおむね2倍増加した。
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	さまざまな文化・芸術に触れる機会を提供することができた。より効果の高い事業内容で実施できるよう検討していく。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点施策名	文化団体の支援	担当課	文化振興課
概要	市民文化活動の担い手として活動している市内の文化団体などに対する事業協力や支援を図る。		
平成30年度の実績	・各種文化団体に補助金等を交付し、文化活動の支援を図った。		
	深谷市文化団体活動事業補助金	320,000円	
	埼玉県北美術展補助金	1,000,000円	
	指標名	実績値	指標別コメント
	補助金交付団体数	2団体	補助金を2団体へ交付できた。
	文化団体連合会登録団体数	17団体	平成29年度より1団体増加した。
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	補助金等を交付することにより、各種団体の文化活動の支援が図られた。さらに活動協力や支援を行っていきたい。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

施策名		スポーツ・レクリエーションに親しめる環境整備		点検評価表作成課		生涯学習スポーツ振興課		
施策の方向性		○利用者が安全かつ快適に利用できるよう、より一層の充実した管理・運営を行っていく。 ○指導者の育成を通じ、スポーツ・レクリエーション活動に、市民が積極的に取り組めるような環境を整備する。						
施策に関連する主な取組		○スポーツ・レクリエーション施設の整備・充実(再掲)						
		○指導者の養成						
指標名		社会体育施設の利用者数						
成果指標	指標の説明	平成28年度実績値	平成29年度実績値	平成30年度実績値	令和元年度実績値	令和2年度実績値	令和3年度実績値	令和4年度実績値
	総合体育館(ビッグタートル)などの社会体育施設の年間利用者数	538,000人	455,795人	478,391人				
		現状値 (平成28年度)	538,000人		→	目標値 (令和4年度)	540,000人	

平成30年度重点施策	○社会体育施設整備管理事業	
平成30年度実績	<p>○スポーツ・レクリエーション施設の整備・充実(再掲)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合体育館の自動火災報知設備更新工事設計業務、更新工事及び研修会議室空調設備更新工事を実施した。</li> <li>・中瀬グラウンドブロック塀修繕工事を実施した。</li> <li>・川本天神テニスコート修繕、照明修繕を実施した。</li> </ul> <p>【利用者】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度利用者実績 478,391名 (平成29年度実績 455,795名)</li> <li>(総合体育館:203,121名、市民体育館:12,758名、B&amp;G:3,653名、市営グラウンド:62,811名、公民館体育室:196,048名)</li> </ul> <p>○指導者の養成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ少年団認定員研修会に42名、認定員養成講習会に40名が参加した。</li> <li>・深谷アスリートクラブ事業(小学校体育授業へ大学生等指導者派遣、スポーツ教室の開催及び支援、大会・イベントの開催)を実施した。</li> </ul>	
総合評価	<b>A</b>	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
課題	経年による施設の老朽化が進んでおり、毎年いずれかの施設に改修を要する状況となっている。	
評価コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の修繕箇所数は年々増加傾向にあるが、限られた予算のなかで適切に対応できた。</li> <li>・市民体育館は、アリーナ床面の不良により激しい運動を伴う種目の利用制限したことにより、利用者が減少した。</li> <li>・公民館体育室への利用を促したことにより、成果指標である社会体育施設の利用者数が増加した。</li> <li>・指導者養成講習会の開催により、スポーツ指導者の幅広い知識の習得や指導活動を支援することができた。</li> <li>・以上のことから、総合評価は「A」とする。</li> </ul>	

意見・提言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビッグタートルは素晴らしい施設であるが、もう少し市民の方が気楽に来られるような雰囲気作りができると良い。</li> <li>・陸上競技場は、老朽化が進んでおり、今後の適切な維持管理が望まれる。</li> </ul>
-------	---

## 重点施策評価表

重点施策名	社会体育施設整備管理事業		担当課	生涯学習 スポーツ振興課
概要	総合体育館(深谷ビッグタートル)を中心に市民が積極的にスポーツ・レクリエーション活動を行える環境を整備する。			
平成30年度 の実績	【深谷市総合体育館指定管理業務委託】 ・受託者 ふかや体育施設管理グループ ・深谷市都市公園、花園農業者トレーニングセンターとともに指定管理者による管理を行っている。 ・平成29年度から新たに5年間の指定管理を更新した。			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	施設管理上の事故件数	0件	施設設備の不備による事故は発生しなかった。	
	年間利用者数	309,094人	利用者及び利用件数が毎年増加している。	
年間利用料収入	46,426,320円	興行大会などが開催され、直近5年間で最高収入額となった。		
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	3	指定管理者により適切に管理運営されているが、施設の各設備に経年による老朽化が見受けられ、計画的に改修することが今後必要となる。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

基本目標Ⅶ スポーツ・レクリエーションの推進

Ⅶ-2

施策名		スポーツ・レクリエーションを通じた健康・ふれあいづくりの推進			点検評価表 作成課	生涯学習スポーツ振興課		
施策の方向性		○市民ニーズに合わせたスポーツ・レクリエーション活動の充実を図る。 ○市民の健康づくりとふれあいの機会を創出する。						
施策に関連する 主な取組		○スポーツ推進委員との連携の強化						
		○市民の健康づくりとふれあいの機会の創出						
指標名		スポーツやレクリエーションを行っている市民の割合						
成果指標	指標の説明	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	令和2年度 実績値	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値
	深谷市民まちづくりアンケートにおいて、スポーツやレクリエーションを「日常的に行っている」「ときどき行っている」と答えた市民の割合	40.0%	42.6%	38.0%				
		現状値 (平成28年度)	40.0%		➡	目標値 (令和4年度)	43.0%	

平成30年度 重点施策	○健康とふれあい創出事業	
平成30年度 実績	<p>○スポーツ推進委員との連携の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ推進委員と協力して、みんなのふっかちゃん体操の普及・障害者スポーツ・軽スポーツに取り組んだ。</li> <li>・公民館事業としてのスポーツ・レクリエーション事業へスポーツ推進委員を派遣し、スポーツ・レクリエーション活動の充実を図った。</li> </ul> <p>○市民の健康づくりとふれあいの機会の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の更なる健康増進のため深谷市歩け歩け協会との市民協働事業により、ウォーキングイベントを開催した。</li> <li>・市内文化施設を巡る常設コースなど設置し、市民へ周知を図った。</li> </ul>	
総合評価	<b>A</b>	※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる    A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない        C: まったく進んでいない
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ推進委員の次年度以降の確保や指導可能種目数を増加させ、スポーツ指導体制の充実を図る必要がある。</li> <li>・常設コースは深谷、岡部地区の設置されているため、今後川本、花園地区にコース設置をしていく必要がある。</li> </ul>	
評価コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域における活動可能なスポーツ推進委員として26名に委嘱することができた。</li> <li>・スポーツ推進委員の一人当たりの活動回数は21回であり、地域においてスポーツ種目実技指導や行事の協力・支援活動を一人一人が積極に取り組むことができた。</li> <li>・市民協働事業によりウォーキング大会を開催し多くの参加者があり、健康増進やふれあいの機会の創出ができた。</li> <li>・以上のことから、総合評価は「A」とする。</li> </ul>	

意見・提言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウォーキングイベントは、コースの安全にも配慮されており、良い取組である。</li> <li>・スポーツ・レクリエーションを通じた健康・ふれあいづくりの取組は、病気の予防という点からも大変良い取組である。今後も参加者を増やして、継続してほしい。</li> </ul>
-------	--



## 重点施策評価表

重点施策名	健康とふれあい創出事業		担当課	生涯学習 スポーツ振興課
概要	ウォーキングマップの作成及び「みんなのふっかちゃん体操」の周知を図り、市民の健康増進とふれあいの機会を創出する。			
平成30年度 の実績	【スポーツ教室・イベント開催事業】 ・ウォーキング推進事業(市民協働事業者:深谷市歩け歩け協会) ・ウォーキングイベント(ふっかちゃんわくわく市民ウォーキング) 9月29日(日)35名参加、12月9日(日)131名 ・ウォーキングマップの作成 岡部西コース、渋沢栄一のふるさとコースの常設コースについてマップ作成			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	ウォーキングコースの設置数	4コース	川本、花園地区のコース設定が課題である。	
	ウォーキングイベントの開催回数	2回	市民協働事業者と協力し安全に開催できた。	
	ウォーキングイベント参加者数	166人	設定コースに参加者数の偏りが生じてしまった。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	市民協働事業として安全に開催することができ、今後も安全に配慮して開催できるように事前準備をする必要がある。また、市内各所に10~15km程度の常設コース設置をしていきたい。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

<b>施策名</b> スポーツ・レクリエーションによるまちの活性化		<b>点検評価表作成課</b>		生涯学習スポーツ振興課				
<b>施策の方向性</b>		○スポーツ・レクリエーション団体やスポーツ推進委員を核に、本市の地域におけるスポーツ・レクリエーション活動を推進する。 ○スポーツ・レクリエーション大会・教室などへ参加するきっかけを作るため、情報の提供・周知を図る。						
<b>施策に関連する主な取組</b>		○スポーツ・レクリエーション活動への参加機会の充実						
		○スポーツ・レクリエーション団体の活動支援						
<b>指標名</b>		東京オリンピック・パラリンピック、ラグビーワールドカップを契機としたイベントの参加者数						
<b>成果指標</b>	<b>指標の説明</b>	平成28年度実績値	平成29年度実績値	平成30年度実績値	令和元年度実績値	令和2年度実績値	令和3年度実績値	令和4年度実績値
	東京オリンピック・パラリンピック、ラグビーワールドカップに係った各種イベントなどへの参加者数	3,000人	10,955人	12,038人				
		現状値 (平成28年度)	3,000人			目標値 (令和4年度)	4,000人	

<b>平成30年度重点施策</b>	○スポーツ教室・イベント開催事業 ○ラグビーワールドカップ2019関連事業	
<b>平成30年度実績</b>	○スポーツ・レクリエーション活動への参加機会の充実 ・第13回ふかやシティハーフマラソンを開催し、5,219名が参加した。 ・アスリートクラブ事業によるジュニアスポーツフェスタやふっかちゃんカップジュニアバレーボール大会など多くの事業を開催した。  ○スポーツ・レクリエーション団体の活動支援 ・体育協会、レクリエーション協会、スポーツ少年団の加盟団体が主催する各種大会・教室等の広報支援として広報ふかや等への掲載を行った。	
<b>総合評価</b>	<b>S</b>	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる    A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない        C:まったく進んでいない
<b>課題</b>	がんばる地元アスリートを支える体制を構築していく必要がある。	
<b>評価コメント</b>	・成果指標である年間参加者数は、平成29年度に比べて大幅に増加した。 ・第13回ふかやシティハーフマラソンを盛大に開催することができた。 ・ジュニアスポーツフェスタなどの多くの事業を開催し、年間参加者数を増やすとともに、市民のスポーツ・レクリエーション活動への参加機会の充実を図ることができた。 ・以上のことから、総合評価は「S」とする。	

<b>意見・提言</b>	・スケートボード教室の開催等、オリンピック種目の体験が出来るイベントの開催は、深谷市でも意識を高めていこうという意味合いが感じられる良い取組である。 ・スポーツイベントの開催時には、安全面の確保も重視してほしい。
--------------	---

## 重点施策評価表

重点施策名	スポーツ教室・イベント開催事業		担当課	生涯学習 スポーツ振興課
概要	「ふかやシティハーフマラソン」等イベントの開催及び小学生のスポーツ環境推進のためアスリートクラブ事業を実施します。また、2020年オリンピック・パラリンピックキャンプ誘致活動を継続して実施する。			
平成30年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第13回ふかやシティハーフマラソン参加者数 5,219名</li> <li>・鴨んバレー大会、体力測定、がんばル〜ム(子どもスポーツ支援)、ランニング教室、ジュニアスポーツフェスタの参加者数 2,204名</li> </ul>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	第13回ふかやシティハーフマラソンに参加したボランティアの人数	1,176名	1,000名を超えるボランティアの協力があつた。継続してボランティアの参加を呼び掛けていく。	
	ジュニアスポーツフェスタ参加人数	1,800名	小学校低学年を中心に15種目のスポーツを一度に体験できるイベントを開催した。	
担当課評価	市民ランニング教室	33名	マラソン大会参加、また健康増進のため、初心者を対象とした教室を開催した。	
	評価区分	評価コメント		
	1	第13回ふかやシティハーフマラソンは、5,000名を超える参加、深谷市体育協会加盟団体をはじめとする1,000名を超える市民ボランティアにより盛大に開催できた。また、スポーツ未経験の子ども達に色々なスポーツを体験してもらうジュニアスポーツフェスタを実施し、各団体等の協力により盛大に開催できた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策名	ラグビーワールドカップ2019関連事業		担当課	生涯学習 スポーツ振興課
概要	2019年ラグビーワールドカップに向けて、イベントやラグビー教室を実施する。			
平成30年度の実績	【深谷ラグビーフェスティバルの開催】(台風により中止) <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民協働事業として、深谷市ラグビーフットボール協会との協働により開催を予定していた。</li> <li>・イベント内のラグビー教室として、深谷高校ラグビー部員の協力を得て実施を予定していた。</li> </ul>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	深谷ラグビーフェスティバル参加人数	0人	台風により中止となった。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	ラグビーワールドカップ日本大会の開催を契機にラグビー競技者の増加を目指し、イベントの開催を継続していきたい。市ラグビーフットボール協会等の関係者と協力して取り組んでいきたい。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

## 6 結びに

深谷市教育委員会では、本市教育行政の基本計画である第2期深谷市教育振興基本計画に基づいて、教育行政を推進しています。

令和元年度の点検評価では、第2期深谷市教育振興基本計画の27施策すべてを対象に、平成30年度に執行した各施策の点検評価を実施しました。

その結果、27施策中、1施策に対して総合評価「S」（計画以上に進んでいる）と、26施策に対して総合評価「A」（ほぼ計画通りに進んでいる）と評価することができました。

今後も、社会情勢の変化を踏まえながら、第2期深谷市教育振興基本計画に基づき、目標に向け着実に推進していくとともに、今回の点検評価で課題とされた点については事業の改善等を図っていきたいと考えています。また、教育行政の推進にあたっては、教育委員会と市民、地域及び関係機関が連携し、一体となった取組を推進していきたいと考えています。

最後に、今回の点検評価を行うにあたり、その客観性を確保する観点から、次の点検評価者にご意見及びご提言をいただきました。この場を借りましてお礼申し上げます。

根岸 雅子	深谷市社会教育委員
高橋 丘	埼玉工業大学非常勤講師

なお、施策ごとの総合評価及び点検評価者のご意見及びご提言の要旨を次のとおり一覧で示します。

施策名	総合評価	点検評価者の意見及び提言の要旨	頁
I－(1) 生きる力の基礎を育む 幼児教育の推進	A	3歳児受入れや平日の預かり時間の延長などの保育サービスの向上への取組及び子育てひろばの安全性や体験の多様性が評価されました。	4
I－(2) 未来を切り拓くための 確かな学力の育成	A	全国学力学習状況調査の正答率において、県平均を上回った学校の割合が目標値に達する為の取組について提言を受けました。	8
I－(3) 郷土深谷を愛し国際性 を育む教育の推進	A	こども学びスタ in 深谷は来場者数が多く、満足度が高いことが評価されました。英語教育における英会話の充実について提言を受けました。	12
I－(4) 時代の変化に対応する 教育の推進	A	I C T機器の高い整備率及びころざし深谷科学塾の取組が評価されました。	18
I－(5) 夢を育み志を実現する キャリア教育の推進	A	職場体験学習は生徒にとって有意義な体験であることや、企業からしても良い取組であること及び中学校と高校の進路指導主事の必要に応じた情報交換が評価されました。	22
I－(6) 多様なニーズに応じた 特別支援教育の推進	A	発達支援アドバイザーの訪問により、職員の特別支援教育への理解が深まり、適切な支援が出来ていることが評価されました。インクルーシブ教育の充実について提言を受けました。	24
II－(1) まごころと思いをやりを 育む教育の推進	A	渋沢栄一を活用した道徳教育の各取組が評価されました。	28
II－(2) いじめ・不登校の防止	A	スクールライフサポーターの配置及び不登校生徒の割合が県の平均値を大きく下回っていることが評価されました。	32
II－(3) 生徒指導の充実	A	児童生徒の暴力発生件数が、平成30年は0件となったことが評価されました。ネットやSNSでのいじめについて提言を受けました。	36
II－(4) 人権を尊重した教育の 推進	A	男女共同参画の具体的な取組及び性同一性障害の児童生徒への対応について提言を受けました。	38
II－(5) 健康の保持増進	A	深谷市内のほぼ全地域で自校式給食となったこと及び地場産野菜を使用した給食の提供が評価されました。児童生徒の朝食摂取について提言を受けました。	42
II－(6) 体力の向上と学校体育 活動の推進	A	部活動指導員制度が児童生徒への専門的な指導だけでなく、教員の負担軽減にもなることが評価されました。走力の向上について提言を受けました。	46

施策名	総合評価	点検評価者の意見及び提言の要旨	頁
Ⅲ－（１） 信頼される教職員の育成	A	メンタル面等で悩んでいる教員に対してメンタルヘルスを活用するよう提言を受けました。	50
Ⅲ－（２） 学校の組織運営の改善と地域の核となる学校づくり	A	学校運営協議会の充実した活動が評価されました。	54
Ⅲ－（３） 子供たちの安全・安心の確保	A	明戸小学校の朝散歩、大寄小学校のお迎え散歩の取組が評価されました。児童生徒への交通ルールの徹底について提言を受けました。	56
Ⅲ－（４） 学習環境の整備・充実	A	学校の遊具の数の確保及び施設の改修時における埼玉県の木材の利用について提言を受けました。	60
Ⅳ－（１） 家庭の教育力向上に向けた支援	A	親の学習講座の参加者増加への工夫及び家庭教育学級の実施などをおとした地域の方々とのコミュニケーションについて提言を受けました。	62
Ⅳ－（２） 家庭・地域・学校が協力する教育体制の整備	A	がんばる〜ムの参加者減少の対策について提言を受けました。	64
Ⅴ－（１） 市民のニーズに応える生涯学習の支援	A	子ども大学ふかやの取組及び参加者の技術向上が図られるパソコン講習会の取組が評価されました。	66
Ⅴ－（２） 生涯学習施設の整備・充実	A	新岡部公民館の完成後の活発な利用及び施設の地域間格差について提言を受けました。	68
Ⅴ－（３） 図書館サービスの充実	A	ブックスタートなど図書館サービスの充実のための取組が評価されました。	70
Ⅵ－（１） 渋沢栄一翁をはじめ郷土の偉人を生かした取組の推進	A	渋沢栄一ゆかりの施設の増加した来場者数の維持及びボランティアの育成について提言を受けました。	72
Ⅵ－（２） 深谷が誇る歴史・文化の保存・継承と活用	A	ホフマン輪窯などの文化財の観光資源活用及び長期的な都市計画で住民が転居することなく町並みの保存を図れる方策について提言を受けました。	76
Ⅵ－（３） 市民が行う文化芸術活動の支援	A	文化遺産を活用した清風亭でのコンサートが評価されました。市民が行う文化活動への支援について提言を受けました。	80
Ⅶ－（１） スポーツ・レクリエーションに親しめる環境整備	A	ビッグタートルに市民が入りやすくなるような雰囲気作り及び陸上競技場の維持管理について提言を受けました。	82
Ⅶ－（２） スポーツ・レクリエーションを通じた健康・ふれあいづくりの推進	A	ウォーキングイベントなど市民の健康づくりの取組が評価されました。	84
Ⅶ－（３） スポーツ・レクリエーションによるまちの活性化	S	スケートボード教室の開催等、オリンピック種目の体験が出来るイベントの開催が評価されました。	86

令和元年度  
教育委員会の事務執行に関する点検評価報告書

発行 令和元年 11 月  
編集 深谷市教育委員会

〒366-0823

深谷市本住町 17-3

TEL 048-574-5811

FAX 048-574-1744

